

陸の人形(日活) 二八〃  
 海の野獸(アライザース) 二五〃  
 ドンキョー(ユナイテッド) 二〇〃  
 日輪(日活) 一三〃  
 最後の人(ウィリアム) 一二〃

本道の映畫製作としては札幌に堀内商會があり一般の求に應じて映畫を作製してゐる。其他としては北海タイムス活動寫眞部、小樽新聞社活動寫眞部があり本道の時事を映畫としたタイムス社は大きな努力を拂つて本道スキー界を紹介する目的で「シーハイム」を完成した。また道廳に於ても衛生思想、火防宣傳、又は思想善導の方針のもとに特種映畫を作製し全道に公開してゐる。

寫眞

本道の美しい風致が生む藝術に著しく進歩を見せたものに寫眞術がある。素人の間に多くの藝術的價値のあるものが創作せられてゐる大正十五年中の主な展覽會を紹介しよう。

○十勝カメラ印畫展覽會 八月八日から三日間帯廣畜産組合主催の下に組合事務所で開催され多數の傑作が出品された  
 ○寫眞展覽會 小樽寫眞研究會主催第七回展覽會は九月十日から小樽及札幌で

開催された。入選者は左の如くである。

第一部會員作品一等磯路を急ぐ坂口豊一、二等十月の郊外同氏郊外の雪同氏三等客馬橋森市藏、正午の印象同氏の工場の横大口道忠氏、第二部會員外の分一等曙け行く丘大谷雄三郎、二等線のリズム吉田勇、冬景今井卯八、三等コンストラクション加藤俊雄、睡蓮小島與市、倉庫風景近間三代次及佳作に大谷、手塚、今井、加藤等あり。

○札幌カメラ會展覽會 札幌カメラ會主催第一回藝術寫眞展覽會は十字街一條薬局に十一月一日から開催され總點數百二十一點であつた一等「秋空高し」兒島白浪、二等「海近し」大島氏「構内小景」片柳氏、「いこひ」岩井氏。會員作では「テント、ある風景」尾崎氏、「落陽」坂氏、「晩秋細雨」等が優れてゐた。参考品として三春久平氏「裸婦」M氏肖像「青木終一氏」肖像」等が目玉を惹いた。

○カメラ同人會展覽會 道廳農務課内カメラ同人會第一回展覽會は商品陳列所樓上で昭和二年一月二十八日から三日間開催された入賞は、一等「峠」野々瀬惠一郎氏△二等「凍る朝」同人△二等「晩鐘」大野文助氏△三等「農家の雪」野々瀬惠一郎氏△三等「港の朝」松浦雷山氏△三等「丘」高木直一氏△外佳作十名

出版

概況

生活意識の徹底は一面思索、冥想、信仰等の内的活躍に趨り他面、言論、思想の自由、藝術の國際化、宗教の普及を招來し、ラヂオの普及、航空機の實用化通信機關の完備は千里比隣の緊密の程度を増し世界の動きに關し正確迅速な報道を要求する様になり、普選法實施に伴ふ參政權の大擴張は一般民衆の意見の公表を望み、茲に是等の意慾を満足爲めの新開、雑誌の刊行を要望するに至つたのである。殊に本道は拓殖の道程其半にあり殖民に、土木に、産業に、教育に、其他各般の事業の促進は道民の一致協力によつて達成せられる點多きに於て道論を喚起し其云はんとする所を云はしむべき特殊の事情の存在するに於て其機關整備の必要愈々急なるものがある。事實は雄辯に語る。近年不景氣だ、銀行破綻だ、騒いでゐるのを外目にかけて、本道言論機關界のみは其増加の趨勢を辿つてゐるのである。

今本道發刊の是等新開雑誌の刊行數に就き調査するに大正九年一二六、同年一八六、同十一年二〇三、同十二年二五六、同十三年二七一、同十四年三二五

本道の文藝界は未だ初歩の域を脱せず札幌詩學協會、札幌文藝協會、北大文藝部、高商文藝部、札幌短詩會、小樽十字街、札幌短歌會及び興風會等の團體がある。十五年夏は、今井賢三氏、井東憲氏、が來道して函館、小樽、札幌で文藝講演を行ひ、同時に鳴海要吉、内藤誠策の二氏來札幌講演會を開催した九月には若山牧水氏來道、それを期として全道短歌大會が札幌新善光寺で開かれ同時に詩藝臺で講演會が催された。

華道

本道華道は池坊を第一とする。札幌に陣野芳窓、石原安子、石崎格之助、松本實叟、平野綠の諸氏、旭川に鈴木照治、廣澤徳次郎、木村常子の諸氏、小樽高山氏、其他伊藤武之丞、山田源七郎、志賀峰吉、中野志代字、大日向里、中島菊井早川信の諸氏によつて益々發展に努力せられてゐる。生花ほど審美的の藝術はなるといふ點で婦人間に最も普及されてゐる。

昭和元年三七八と増加してゐるのである。是等幾多の新開中一頭地を抜き北海の兩雄と謳はれ、地方新聞の代表的なものとして自他共に之を認め、本道の誇の一として道民の朝夕愛讀して已まない我が北タイムス、小樽新聞について其沿革、組織、社業等を左に略述しよう。

北海タイムス

北海タイムスは明治三十四年八月合資會社組織に改め北海タイムス合資會社とした。同紙の創刊は明治十七年で嘗て札幌市に發行の北海道毎日新聞、北門新報、北海時事の三新聞を合併して題號を北海タイムスと稱する様になつた。政派關係は政友系色彩を帯びてゐるが發刊以來四十年餘北海道開拓文化促進の急先鋒となり現在北日本新聞界否本邦地方新聞界に重きを爲してゐる。現在の社屋(札幌市大通四三丁目所在)は大正十一年完成、鐵筋コンクリート三階建總坪數七百二十七坪を有する大通の一角に美觀を添へてゐる。同社現在の幹部左の通り、

- |    |       |
|----|-------|
| 社長 | 阿部良夫  |
| 理事 | 柏岡清勝  |
| 監事 | 持田謹也  |
| 顧問 | 東植庄一郎 |
| 顧問 | 吉植庄一郎 |

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 編輯局長兼營業部長 | 山口喜一        |
| 兼營業部長     | 長内清         |
| 兼政治經濟部長   | 岡田次雄        |
| 兼社會部長     | 河合七郎        |
| 營業局長      | 編輯局長兼任 瀨川山吾 |
| 廣告部長      | 高橋恒次郎       |
| 庶務部長      | 東富七         |
| 經理部長      | 瀧本靜良        |
| 工場長       | 島津義二        |
- 同社は道内樞要地に十八ヶ所、道外の東京、大阪、青森、樺太の各地計二十二ヶ所の支局を始め三百餘名の特置員、通信員を有し通信網を整備し編輯局は整理部、政治經濟部、社會部、通信部、調査部、校訂部、寫眞及美術部に分ち、營業局は販賣部、廣告部、庶務部、經理部、工場部の各部に分ち各部全従業員約四百名、毎日朝刊八頁乃至十二頁、夕刊四頁、版數五、特殊版として渡島後志版、上川宗谷版、釧路根北版、樺太版等を發行し、内國製輪轉機七臺、製版設備を悉く完備してゐる。同社は同大正十五年八月組織變更後滿二十五年記念事業として札幌中島公園に國産振興博覽會を主催開設し本邦産業の振興と北海道紹介とに寄與貢獻す



る所あつた、尙ほ同社は同記念事業の一として社内航空部、活動寫眞部を附設したが現在サルムソン式飛行機三臺と市北二十四條西六、七丁目六町六反七畝二十三歩の面積を有する専屬飛行場に永久的建物の格納庫(八十坪)事務所(十五坪)とを所有し航空輸送に備ふる一面北海道航空思想宣傳に努力してゐる蓋し個人を以て飛行場を所有するは本邦唯一と稱せらる、又活動寫眞撮影部の活動に依り文字に依るニュース報道に止まらず寫眞に依るニュース報道にも力めてゐる、この他同社は本道スポーツ振興獎勵の見地より毎年八月札幌市に全道少年野球大會を催し、今や本道體育上の年中行事の一に算へらるゝに至つた。

○主要設備  
内製製輪轉機 七臺  
使用活字 七ポイント五  
字母設備 整備  
活字鑄造機 五臺  
鉛板鑄造機 一式  
寫眞製版術 一式  
(其他木版彫刻の設備を有す)  
○各種料  
購讀料 一ヶ月 一圓  
廣告料 五號一行普通面一圓  
同特別面 二圓  
同指定料一行二十錢増  
尙ほ同社の大正十五年以來の事業の主な

催にて札幌中等學生のキャンプ實習を中島公園に舉行し久木村少將の檢閲式あり  
○八月十四日北大辯論部主催本社後援にて全道雄辯大會を札幌市に開く。  
○八月十七、八兩日國産博會場内に第三回アマチュア寫眞競寫會を開催す。  
○八月二十、二十一兩日札幌一中校庭に本社主催第三回全道少年野球大會を開催數萬の觀衆熱狂裡に小樽手宮西校優勝す  
○八月二十六日國産博會場にて婦人見學團を舉行。  
○八月三十日今期三十日間大盛會裡に國産博覽會閉會式を舉行す。  
○九月二十五日婦人見學團開催琴似工業試驗場及農事試驗場を、見學三宅博士其他の講演あり。  
昭和二年  
○一月十七日より二月下旬に亘り札幌小樽旭川岩見澤の各學校に於て本社航空部主催の航空趣味講演會を開き本道航空思想喚起に努む。  
○三月十日本社活動寫眞撮影部は函館線鹽谷温泉及奥手稻に於て模範的スキー技のロケーションを行ふ。  
○四月二十五日第十四回婦人見學團を開催苗穂鐵道工場並に福山釀造工場を見學參加團員二百五十名。  
○四月二十九日今上陛下第一回天長節を奉祝の爲本社飛行機は札幌上空を奉祝飛行を行ふ。

るもの左の如くである。  
大正十五年昭和元年  
○三月四五兩日日本社並に東京日々新聞共催の山岳講演活動寫眞會を札幌市に開催カナデアン、ロツキ、アルバートを征服せるアルビヒスト三田、岡部氏の講演同活動寫眞の映寫あり。  
○三月八日訪歐飛行に成功せる河内一彦片桐庄平氏來社、歓迎會開催  
○三月九日新任小樽駐在ソウエイト領事マシリエフ氏一行來社歓迎會を豊平館に開く。  
○三月十八日日本社組織變更二十五年記念事業として國産振興博覽會開催計畫を紙上に發表す。  
○四月二十三日札幌市に開催の第十五回東北六縣及北海道商業會議所聯合會列席者を招待し國産博覽計畫を發表し援助方を懇談す。  
○五月六日婦人見學團開催本社各部見學の上豊平館内明治大正兩陛下の御座所を拜觀河野常吉氏の札幌市の歴史に關する講演あり。  
○五月二十七日同上時計臺に於て札幌靜修高女講師渥美女史の「高松宮殿下の御幼時」東北大講師田中館理學士の「高松宮殿下に御供して」の各講演あり同殿下御動靜の活動寫眞映寫あり參加團員五百名  
○六月一日日本社に航空部を開設し元東亞飛行學校教頭永田一飛行士を専任飛行士

に任命。  
○六月六日日本社主催アマチュア寫眞攝影會を定山溪に開催。  
○六月十日日本紙夕刊を發行す。  
○六月十三日日本社支局長及全道本紙實捌店入會を開催國産博覽計畫表且援助方を懇談し後定山溪に懇親會を開催。  
○六月八日中島公園第一會場敷地に國産博覽會中川健藏氏以下臨席地鎮祭舉行。  
○六月二十日婦人見學團開催小樽市水道公園、港灣等を見學參加團員百五十名。  
○六月二十三日札幌樓上に全道各支廳勸業主任各商議代表者を招請國産博覽會に就き協議。  
○七月二十日日本電通社主催の東京出版業者本道視察團來社幾代に歓迎會を開く  
○七月十九日在札新聞記者二十餘名を招待國産博覽會場案内午餐會を開く。  
○八月一日國産博覽會は豫定の如く開場した頗る好評で規模内容ともに大正七年開催の北海道博覽會を凌駕し各方面の驚異の的となる。  
○八月五日日本社及東京朝日共催にて囊に訪歐飛行に成功せる東風機及河内飛行士片桐機關士に依り東京札幌間無着陸飛行を敢行無事に到着した、同機には本社東京支局佐藤記者同乗した尙同機は札幌旭川其他他道内各地を飛行し國産博覽會を宣傳を撒布し且航空思想喚起に努めた。  
○八月九日日本社並に札幌在郷軍人分團共

○五月十二日ロストワールド試寫會を社内試寫室に開催北大教授八田三郎博士の前世紀生物に關する講演あり。  
○五月十六日帝國海防義會日本一周機來樽に付本社北斗機は途中迄出迎小樽へ誘導飛行を行ふ。  
○五月二十八日第十四回本社主催婦人見學團は北大工學部及本社飛行場を見學參加團員二百五十名。  
○六月九日第十五回本社主催婦人見學團は千歲縣化場明治天皇行在所跡見學リリ狩等を行ふ。  
○六月十七日日本社主催にて尾崎學堂氏演說會を札幌市に開催す。  
○六月二十八日商況専用活字を採用。  
小樽新聞  
沿革  
○五月札報市で創刊した政治雜誌「北海民燈」で、同年十月これを日刊新聞に改め、二十七年六月本社を小樽市に移轉し同年十一月「小樽新聞」と改題した。四頁から漸次紙幅を六頁に擴張し、四十年九月工場新築成つて率先輪轉機を入れ同年に八百新聞を發行し來つたが、大正十一年六月毎號十頁と爲し更に十三年三月から毎號十二頁に改め、十五年六月より朝刊八頁とし夕刊四頁を發行すること、し、必要に應じ隨時十六頁新聞を刷出す等、社運の發展に伴つて必須の施設は著々として實行し遺憾なきを期して來た

のてある。札幌に支社を置き、東京、大阪、青森、樺太、函館、旭川、室蘭、釧路を始め二十一箇所に支局を有ち、基礎全く完備してゐる。大正七年八月株式會社に改め、益々社業の改善を圖り、十二年五月創立三十年の記念號を發刊した。今や本紙の發行部數激増の要求に伴ひ超高速度輪轉機を獨逸國に注文の處、此程漸く到着し現に之れが据付工事中に屬し來る八月にはその運轉を見るの豫定である、廣告收容量も亦嶄然頭角を抜き、優に地方新聞中に於て第一位を占むる様になつた。  
最近の社業  
大正十四年度に於て五月十日御大婚二十五年祝典御舉行につき奉祝記念として兩陛下御尊影を精巧なグラビヤ版附録として發行した。同日懸賞を以て北海道拓殖計畫論文を募集し八月中旬之を發表し本道第二期拓殖計畫の參按に資した。五月下旬本社商況部出張所を東京市日本橋區濱町に新設した。七月下旬新に青森支局を設く。八月上旬攝政宮殿下樺太行啓に付在島小學兒童の熱誠な奉迎文を募集發表した。八月中旬第三回南樺太周遊團を組織し千歲丸を就航させ八月十一日から一週間札幌郡野幌原生林で第二回林間學校を開設した。八月中旬第四回全北海道庭球(軟球)選手權大會並に第三回女子庭球大會を開いた。十月初旬本社第二工場完成。十月中旬第十



二回讀者觀楓大會を本道三景の一である定山溪に開いた。十二月初旬、皇孫殿下御誕生奉祝の爲め本道並に樺太で、殿下と同日に誕生の嬰兒に對し記念品を贈呈し且つ小學兒童の眞心をこめた奉祝文を募集し長くも其優秀文を攝政宮殿下に奉呈するの榮を賜つた。十二月二十五日折式輪轉機増設合計五台となり十二月二十七日北海道廳公布式新用に指定せられた。尙ほ大正十五年以降に於ける社業の主なる者をおぐれば左の通りである。

- 一、紀元節に懸賞募集の建國記念兒童作品を發表した。
- 一、同日皇孫殿下と同日に誕生の嬰兒へ記念品を贈呈した。
- 一、三月上旬樂聖ベートーフェン百年祭を札幌兩市に開催した。
- 一、三月廿八日第二回全北海道卓球競技大會を札幌市に開く。
- 一、四月時代の進運に順應し、本社活動寫眞部に一大擴張を加へ大方の需要に應ずることとした。
- 一、五月中旬小樽公園東山に本社音楽堂を新築し、花期中毎夜奏樂をなし市民の勞を慰めた。
- 一、五月下旬十勝岳爆發の慘事を見るや率先義捐金を募集し四萬貳千餘圓の巨額を贈呈した。
- 一、六月十一日より夕刊を發行した。
- 一、六月下旬北海道定期航空協會を設立

し、山階宮殿下より優渥なる御令旨を賜ひ七月下旬本社飛行機北海道により東京札幌間の縦斷飛行を敢行し爾後道内主要都市間を飛行した。

- 一、七月皇孫御誕生兒童奉祝文を攝政宮殿下へ献上の處御嘉納在らせられたる旨達せらる。
- 一、七月下旬本道主要都市にコーチャイを派遣し庭球コーチをなした。
- 一、八月一日より一週間野幌原生林に第三回林間學校を開設。
- 一、八月十三、十四、十五日の三日間小樽公園グラウンドに於て第五回北海道實業團優勝競争大會を開く。
- 一、八月十三日新時代の要求に應じ社會教育部を新設。
- 一、八月十五日第四回南樺太周遊團を組織し千歳丸をして就航させる。
- 一、九月十二日第四回全北海道庭球(軟球)選手權大會を小樽市に開く。
- 一、同日ロシアの大提琴家ホルスラツス氏の提琴演奏會を小樽市に開く。
- 一、十月三日女子部第四回庭球大會を小樽市に開く。
- 一、十月十七日第十三回觀楓會を千歳郊外に開く。
- 一、十月十四日第四回懸賞野外寫眞攝影會を札幌郊外に開き其展覽會を札幌兩市に開く。
- 一、昭和二年三月關西地方震災の起るや

直ちに義捐金募集に着手した。

- 一、四月十二日小樽市手宮地方大火四百餘戸を焼く依つて義捐金を募集。
- 一、六月一日より欄外を廢止し紙面を擴張し一段を百四十七行に改む。
- 一、六月六日獨逸軍艦エムアン號の樂手を函館より迎へ札幌兩市に於て日獨親善大音樂會を公開した。
- 一、六月十六日尾崎學堂氏の時局批判講演會を小樽市に開く。
- 一、七月超高速度輪轉機据付の爲め工場新築中。

現勢一斑

社名 小樽新聞社  
所在地 小樽市港町十六番地  
創刊 明治二十六年五月  
現在組織 株式會社  
資本金 參拾萬圓  
政派關係 不偏不黨

幹部

社長 上野壽久  
取締役 坂牛直太郎、平野文安、矢上以久三郎、小川多慶、太田代謙郎、山本厚三

主要設備

獨逸製超高速度輪轉機 一台  
內國製石川式輪轉機 五台

新聞

本道内發行新聞紙及雜誌年次比較

事項	年次比較		備考
	大正十四年	大正十五年	
發行	1,203	1,186	
廢止	45	46	
失効	19	27	
禁刊	1	1	
現在	1,148	1,110	
發行日數	1,148	1,110	
記事注意	1,148	1,110	
登記	1,148	1,110	
發行停止	1,148	1,110	
有罪	1,148	1,110	
無罪	1,148	1,110	
不計	1,148	1,110	

使用活字 七ボイント五  
字母設備 整備  
文字數 一万五千五百字  
活字鑄造機 四台  
モノタイプ 一台  
コッピ機 三台  
鉛版鑄造機 五台  
鉛版仕上機 二台  
寫眞製版機 一式  
凸版製版機 一式

發行回数 (年中無休刊、祝祭日の翌日休刊)  
朝刊八頁 (同)  
夕刊四頁 (同)  
紙面體裁 一行字詰十五字、二段行數百四十七行  
一頁段數十二段  
(北海道廳並に支廳公布式並市公布式、登記公告掲載)

各種料金  
購讀料 一ヶ月金一圓(郵稅十五錢)  
廣告料 五號一行普通面一圓二十錢  
特別面二圓五十錢  
指 定 二十錢増

各地支局  
東京、大阪、青森、樺太、札幌、函館、旭川、室蘭、釧路、倶知安、岩内、岩見澤、夕張、瀧川、深川、留萌、名寄、稚内、帶廣、根室、野付牛、網走

北海内新聞發行調		東 方 (全 國) 西 方	
大關	小關	大關	小關
前頭	前頭	前頭	前頭
一四六	一四六	一四六	一四六
五八九	五八九	五八九	五八九
江岩帶小旭	江岩帶小旭	江岩帶小旭	江岩帶小旭
差澤廣椴川	差澤廣椴川	差澤廣椴川	差澤廣椴川
同同同前頭	同同同前頭	同同同前頭	同同同前頭
三三四四四	三三四四四	三三四四四	三三四四四
夕俱岩本余	夕俱岩本余	夕俱岩本余	夕俱岩本余
張安内別市	張安内別市	張安内別市	張安内別市
同同同前頭	同同同前頭	同同同前頭	同同同前頭
二二一三三	二二一三三	二二一三三	二二一三三
稚中名富網	稚中名富網	稚中名富網	稚中名富網
内別寄野走	内別寄野走	内別寄野走	内別寄野走
同同同前頭	同同同前頭	同同同前頭	同同同前頭
一一二二二	一一二二二	一一二二二	一一二二二
斜江新美羽	斜江新美羽	斜江新美羽	斜江新美羽
甲別得唄幌	甲別得唄幌	甲別得唄幌	甲別得唄幌



本道主要新聞一覽

新聞名	發行所	幹部	摘要
北海タイムス	札幌市大通西三丁目六番地	社長 阿部喜一 局長 山口喜一	資本金 五十萬圓 創刊 明治十七年 活字 輪轉機 七段五制
札幌毎日新聞	札幌市南八條西五丁目四二三	社長 吉田重貞 局長 實子德貞	資本金 二十萬圓 創刊 明治十四年 活字 平盤 八段五制
小樽新聞	小樽市港町一六番地	社長 上野文壽 局長 坂牛直太郎	資本金 五萬圓 創刊 明治二十六年 活字 高速輪轉機 七段五制
小樽商業新報	小樽市色内町八丁目二五番地	社長 鈴木健八 局長 阿部金衛	資本金 八萬圓 創刊 明治三十四年 活字 平盤 九段五制
北門日報	小樽市稻穂町西六丁目九番地	社長 山内信彌 局長 清水忠憲	資本金 拾萬圓 創刊 明治三十四年 活字 平盤 七段五制
函館毎日新聞	函館市鶴岡町一番地	社長 鈴木誠一 局長 小西澤義輔	資本金 拾萬圓 創刊 明治二十一年 活字 輪轉機 七段五制
函館新聞	函館市地藏町一番地	社長 長谷川淑夫 局長 藤林三郎	資本金 拾萬圓 創刊 明治二十一年 活字 輪轉機 七段五制

新聞名	發行所	幹部	摘要
函館北海新聞	函館市若松町八四番地	社長 佐野利光 局長 西村倍吉	資本金 三萬圓 創刊 明治十四年 活字 平盤 八段五制
函館日日新聞	函館市蓬萊町一五五番地	社長 太刀川善吉 局長 林儀忠	資本金 四萬圓 創刊 明治十七年 活字 輪轉機 八段五制
函館商報	函館市大町一九番地	社長 中井多吉 局長 中井多吉	資本金 五萬圓 創刊 明治三十五年 活字 平盤 十一段
北海商報	函館市豊川町一番地	社長 高田安次郎 局長 高田安次郎	資本金 三萬圓 創刊 明治三十一年 活字 平盤 十一段
室蘭毎日新聞	室蘭市泉町四〇番地	社長 田代三吉 局長 谷村次郎	資本金 四萬圓 創刊 明治十四年 活字 平盤 八段五制
室蘭日日新聞	室蘭市幕西町五〇番地	社長 前田祐太郎 局長 前田祐太郎	資本金 六萬圓 創刊 明治二十八年 活字 平盤 七段五制
釧路新聞	釧路市入舟町三番地	社長 遠藤清一 局長 遠藤清一	資本金 七萬圓 創刊 明治卅五年 活字 輪轉機 七段五制
釧路日日新聞	釧路市西幣舞町二五番地	社長 渡邊源四郎 局長 平野岩太郎	資本金 一萬圓 創刊 明治二十五年 活字 平盤 十段五制
釧路實業新聞	釧路市浦見町三丁目三番地	社長 半田銜治 局長 高橋貞一郎	資本金 五萬圓 創刊 明治二十七年 活字 平盤 七段五制



北見新聞	江差日日新聞	なよろ新聞	留萌日日新聞	留萌實業新聞	天鹽中央新聞	中央旭新聞	北海毎日新聞	北海日日新聞
野付牛町三條通 四丁目	檜山郡江差町大 字切石町一九	上川郡名寄町西 二條南八丁目	留萌郡留萌町大 字留萌村開運町 六丁目	留萌郡留萌町大 字南山手通	羽幌町南二條二 丁目	上川郡永山村中 島新通	旭川市九條通十 丁目	旭川市七條通七 丁目左一二號
社長 編輯 長筆	社長 編輯 長筆	社長 長	社長 長	社長 筆長	社長 長	社長 編輯 長筆	社長 編輯 長筆	社長 編輯 長筆
永井勝次郎 千浦慶吾 三浦兵藏	北林七郎 竹谷七郎 北林七郎	岡田新一	城川徹郎	鈴木健次郎 岩谷健次郎	市川止	立藤忠一 三好	永江礎風 橋本吉之助 新田吉之助	大倉郷造 小林義壽郎 野口二義郎 藤原
現在組織 十月二十五年 創刊 大正二十五年 個人經營	現在組織 十一月二十一年 創刊 明治三十一年 個人經營	現在組織 八月十九年 創刊 大正十九年 個人經營	現在組織 八月三十三年 創刊 大正三十三年 個人經營	現在組織 九月十六年 創刊 大正十六年 個人經營	現在組織 五月二十一年 創刊 大正二十一年 個人經營	現在組織 三月十一年 創刊 大正十一年 個人經營	現在組織 五月十四年 創刊 大正十四年 個人經營	現在組織 十月十六年 創刊 大正十六年 個人經營
一活平 頁字盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤	一平 頁盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤
十舊二 一段活 制字臺	八舊一 一段活 制字臺	十舊一 二段活 制字臺	十舊一 一段活 制字臺	八舊一 一段活 制字臺	十三 二段制 臺	十八 一段五 制○臺	十八 一段五 制○臺	十八 一段五 制○臺
購廣朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	購廣夕 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊
一六四 十錢頁	四三五 十錢頁	七八四 十錢頁	五十二 十錢頁	四十四 十錢頁	五十二 十錢頁	三一四 十錢頁	五一四 十錢頁	五一四 十錢頁

旭川新聞	宗谷新報	日高民報	根室日報	根室公論	根室新聞	北海實業新聞	十勝新聞	十勝日日新聞	十勝毎日新聞
旭川市五條通十 丁目右六號	宗谷郡稚内町大 字稚内村字本通 北三丁目	日高國浦河郡浦 河町大字浦河村 六〇	根室郡根室町番 外三號	根室郡根室町大 字彌榮町三丁目 外一號	根室郡根室町大 字有磯町三丁目 三番地	河西郡帶廣町東 三條十一丁目	河西郡帶廣町西 二條八丁目	河西郡帶廣町 西三條	河西郡帶廣町西 二條
社長 編輯 局長	社長 主筆	社長 長	社長 長	社長 編輯 部長	社長 編輯 部長	社長 長	社長 監督 部長	社長 長	社長 編輯 部長
野大昇田 定森中 熊秀秋 之藏雄 進藏聲	岡田義胤	小林哲太郎	三上コト	久石黒林太 保田鐵郎	高山繁 花輪實 兼古萬吉	中島初造	河上賀安太郎 勝貫吾郎	坂本晃	遠谷井浦 藤井徹人 仲仁茂
現在組織 十月二十四年 創刊 大正二十四年 個人經營	現在組織 七月十六年 創刊 明治十六年 個人經營	現在組織 十一月十七年 創刊 大正十七年 個人經營	創刊 十月十四日 大正十四年	現在組織 四月十七年 創刊 大正十七年 個人經營	現在組織 九月二十二年 創刊 明治二十二年 合資會社	創刊 二月二十日 大正二十二年	現在組織 八月十三年 創刊 明治十三年 個人經營	現在組織 十一月十五年 創刊 大正十五年 個人經營	現在組織 十月十八年 創刊 大正十八年 個人經營
一活輪 轉機 頁字盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤		一活平 頁字盤	一活平 頁字盤		一活平 頁字盤	一活平 頁字盤	一活平 頁字盤
十七 二段五 制○臺	十舊二 一段活 制字臺	七舊一 二段活 制字臺		六舊一 一段活 制字臺	十一 一段五 制○臺		九舊一 二段活 制字臺	十舊一 一段活 制字臺	九舊一 二段活 制字臺
購廣朝 讀告料 刊	購朝 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	日	購廣夕 讀告料 刊	購廣朝 讀告料 刊	日	購廣夕 讀告料 刊	購廣夕 讀告料 刊	購廣夕 讀告料 刊
七八十 錢頁	五十四 錢頁	卅五 錢頁	刊	五三六 錢頁	七四四 錢頁	刊	七七四 錢頁	五一四 錢頁	七一四 錢頁







北斗校(根室) 追分校(夕張) 十六校で決勝は函館實校及小樽西手宮校であつたが次の戦跡を残し一A對零て西手宮校の優勝に歸した。

Table with columns for school names (e.g., 西宮, 手宮, 實校) and numerical data representing scores or statistics.

オーケイ十二一中子府 二ビネス六一一留邊藥 二ビネス四一〇留邊藥 小樽實業野球大會 小樽野球協會主 九月二十五日小樽中學校庭及公園グ ラウンドで行はれた戦跡を残した。

井慈地勝村谷野澤本 今久築西木町瀧橋 1 今久築西木町瀧橋 2 今久築西木町瀧橋 3 今久築西木町瀧橋 4 今久築西木町瀧橋 5 今久築西木町瀧橋 6 今久築西木町瀧橋 7 今久築西木町瀧橋 8 今久築西木町瀧橋 9 今久築西木町瀧橋

が行はれその技術も熟達し精神的練磨と 相待つて、やがては新界に於ける權威あ るスポーツマンが生れるに違ひない。

Table with columns for school names (e.g., 北九條, 中川, 三原, 島田, 千野, 笹野, 小田, 近松) and numerical data.

Table with columns for school names (e.g., 東海高, 日館, 西多, 本館, 伊能, 江波, 吉塚, 大塚, 井上, 東海高, 日館, 西多, 本館, 伊能, 江波, 吉塚, 大塚) and numerical data.

Table with columns for school names (e.g., 正島, 並渡, 川今, 東, 北, 大) and numerical data.







四百米リレー 尋男五九秒七(東北組) 尋女一分四秒三(北九條組) 高女一分三秒(西創成組) 八百米リレー 高男一分五秒七(中央組) 高女一分五秒七(中央組) 走高飛 尋女一米一七〇A松村(北九) 尋男一米四〇佐藤(附屬) 高女一米一八宮城島(北九) 高男一米三九美田(北九) 走幅飛 尋男四米二七生駒(東北) 高女四米一〇堀江(附屬) 庭(苗穂) 前年記録二〇米五九泉(附屬)を破ることが出来なかつた 高女二二米五八稻葉(苗穂) 高女二二米五八稲葉(苗穂) ホスジャンプ 高男一〇米六二須藤(山鼻) 右競技に於て前年の記録を破つたもの四十五名、新記録を作つたもの二十一名。中にも尋男走高飛の佐藤(附屬)は全國小學校陸上競技の最高記録一米三七水戸(京都湊)を破り、同五十米の執行(附屬)古河(豊水)久末(西)は何れも最高記録七秒六守屋(京都伏見中)を破り、高男四百米の垣本(西)池田(中央)が之亦最高記録一分二秒四石原(茨城茶崎)を破つた事は痛快事である。

れた。記録は 百米 高男十三秒櫛引(稻穂) 尋男十五秒五分一練合(色内) 高女十五秒五分三皇山(量女) 尋女十六秒四山川(量女) 四百米 高男一分三秒櫛引(稻穂) 尋男一分九秒五分三吉川(手宮) 尋女四分九秒五分三吉川(手宮) 二百米 高女三三秒五分四山(量女) 尋女三四秒五分一山川(量女) 高男三秒五分三吉川(手宮) 尋男三秒五分三吉川(手宮) 走高 高男三呎一〇笹谷、尋男三呎一〇荒谷(色内) ホ、ス、ジャンプ 高男九米七八矢野(稻穂) 尋男九米一〇千島(色内) 四百リレー 高女一分二秒五分一量女(校) 尋女一分二秒五分一(量女) 八百リレー 尋男二分三秒五分一稻穂校、高男二分三秒五分一稻穂校 〇空知農學校陸上競技大会 校友會主催第十八回競技大会、九月十九日行はれた。 〇神宮競技全道選大会 九月二十六日、岩見澤鳩ヶ丘グラウンドで舉行された。全道の粹を集むる百有餘名。澄み渡つた秋空の下に覇を競ふた。北海道選手は今年もまた神宮競技の土産に優勝旗を獲得しようといふ意氣で奮闘し非常な接

戦を見せた。 記録は左記の通りである。(括弧内は神宮青年競技十五年の記録) 百米十一秒五分ノ四渡邊(十一秒四) 二百米二十四秒五分ノ一南部 四百米五十五秒十分ノ一河合(五十二秒二河合一着) 千五百米四分二十九秒五分ノ四加藤(四分十五秒四) 五千米十分四十八秒五分ノ二中澤 一万米三十四分三十五秒五分ノ二中澤 (三十二分四十五秒) 八百米リレー一分三十九秒釧路(一分三十四秒本道二着) 砲丸投十二米九分ノ二龜田(十三米六八五龜田) 圓盤投三十三米二九龜田 槍投四十一米七二永田 走高跳一米六五上野(一米七五) 走幅跳六米二九橋本(六米五七) 〇札幌市民陸上競技 十月廿四日、札幌市立体育所主催、北海タイムス後援で札幌師範學校運動場で開催した。参加者は學生、青年、女子、一般市民等各方面を網羅して頗る興味ある競技であつた。 〇後志支廳第一方面大会 七月廿六日古平町に開催。参加青年團は余市、大江赤井川、美國、余別、古平で四百五十餘名の團員が團旗を翻して参集し非常の盛會であつた優勝團は余市であつた。

〇膽振聯合青年團競技會 七月二十四日紋響小學校運動場で開催。結果は四十一點伊達、十四點蛇田、十二點壯瞥、十一點辨邊、九點德舜瞥、て優勝旗は伊達團の手に歸した。 〇朝里聯合青年團競技會 九月三日、錢函小學校に開催、参加青年團は朝里、張碓、錢函、十萬坪、東部、星置。 〇函館聯合青年團運動會 九月二十四日柏野グラウンドで開催、参加四十八團体約八百の團員が参集し相當な記録をあげた。 〇北海道樺太選手權大會 十月十日、小樽体育協會主催で小樽公園グラウンドに開催、参加者は學生及アマチュアで神宮競技の豫選であつた。 〇北大豫科櫻星會對金烏クラブ陸上競技會 九月二十八日北大新グラウンドに開催、金烏三十點五分、櫻星二十六點五分て櫻星が敗れた。記録は百米一分一秒五分二天島(櫻)。圓盤投二七米五六山本(金)。ローハードル二八秒櫻井(櫻)。走高跳一米五五小玉(櫻)。四百米五五秒五分三酒井(金)。走幅跳五米八二小室(櫻)。棒高跳三米村井(櫻)。千五百米四分三十八秒遠藤(金)。槍投二六米五二戸倉(櫻)。八百リレー一分三九秒金烏。 〇北大對東北大對抗競技 七月二十四日北大新設グラウンドに開催。東北大學優勝す。記録は、百米村上(東北)十一秒

五分ノ二。走高跳青木(東北)一米六三。千五百米鈴木(東北)四分五三秒五分ノ三。走幅跳小島(北)六米〇五(新記録)。槍投今井(東北)四三米五二。四百米鈴木(東北)五五秒五分三(新記録)。圓盤投今(東北)二九米六五。ローハードル今井(東北)二六秒八(新記録)。棒高跳大澤(北大)本郷(東北)三米〇〇五(新記録)。八百米リレー東北一分三十九秒五分一(新記録)。東北四四、五〇北大一二、五。 〇空知農學校陸上競技大会 九月十九日開催戦績略。 〇北中記念競技會 十月二十三日。創立二十五周年記念に開催さる戦績略。 本道の水泳競技界は完全な設備を有してゐないにも拘らず、全国的に優秀な選手を多數出してゐるが、近頃、水泳者の間には適當な設備を施すことの急である事が唱へられ、何等か北海道の水泳競技會を統一し、その技術の向上に資し度いといふ考を抱くに至り、一部の有志は、北海道水泳協會を組織し札幌に模範的プールを建設せんと計畫中である。調査を行つてゐる。この問題は全道の諸方面から多大の應援があり完成の暁には全国的の水泳大会が札幌市で行はれる様になる。小樽市では十五年八月上旬水泳プールの完成したが、東京芝浦、大阪築港プ

水泳

〇水泳講習會 小樽高等商業校は十五年七月二十六日から八月九日まで熊鷹海岸で第三回水泳講習會を行つた。講習生三百て盛大であつた。 〇北海道中等學校競技聯盟水泳部競技大会の四日八月五日から札幌中島プールの決戦戦績は 百米背泳米谷(函商)一分二九秒五分三 二百米胸泳眞船(一中)三分三秒五分二 五十米 米谷(函商)二九秒五分一 千五百米 寺田(函中)四分三秒五分一 四百米 寺田(函中)四分三秒五分二 二百米自由型山崎(函商)二分三秒五分二 四百米自由型松浦(北中)一分三秒五分二 四百米リレー函商チーム五分四分四分四 得點は北海中學四十五點、函商四十二點、五、札幌一中三十五點五、函中二十五點(以下略) 〇全札幌小學生水泳大会 市立札幌体育所主催、九月六日中島公園プールで開催された。 百米高杉(東)二七秒五分四。二百米八木澤(東)三分二九秒。二十五米藤井(東北)一五秒五分一。百米リレー東北組一分七秒五分四。五十米藤井(東北)



三五秒五分二。觀海流千米梶浦(西)二  
四分一九秒。同四百米梶浦(西)九分五  
秒。  
二十五米藤井君、百米リレー東北校の記  
録は何れも全道小學校水泳記録を破つた  
○高商北大豫科對抗水泳競技 八月十  
一日、札幌中島プールで開催され結局三  
十三對十二で豫科の勝利となつた。戦績  
は

五十米鈴木(豫)三一秒五分一  
八百米小林(商)一三分四七秒  
二百米高見(豫)一分一五秒  
二百米アレスト長尾(豫)三分四秒五分三  
二百米宮下(豫)二分三八秒  
四百米宮下(豫)五分五〇秒  
四百米リレー豫科五分三秒五分ノ四  
○北商水泳大會 小樽北海商業學校は  
九月十四日十五日廳立商業プールで大會  
を開催した記録略。  
○全道水泳選手権大會 九月五日、小  
樽体育協會主催。市立中學プールで開催  
神宮競技の豫選會である。参加者は、樟  
商、北中、一中、青年團、北商、樟中、  
札幌ダッククラブ、小樽三段クラブ、北  
大豫科、緑ヶ丘クラブ、道廳の十一團體  
七十四名に及んだ。(記録略)

卓球

卓球も近來運動競技として重きをなす  
に至り、大正十五年神宮競技中にも種目  
として加へられるに至つた。卓球は室内  
運動であるため四季を通じて行ふ事が出  
来るので本道に於ても益々盛んとなり、  
札幌卓球協會小樽卓球協會等の設立を見  
た。  
○水電對北海タイムス社卓球戦 九月  
十六日水電俱樂部で開催。水電軍惜敗。  
○鐵道病院對タイムス卓球戦 十月十  
二日札幌鐵道病院で開催。タイムス大捷  
した。  
○札幌工業學校對札幌西部青年卓球試  
合 十月二十三日西部青年會館で開催。  
青年側大勝した。  
○札幌團體卓球大會 十一月十四日、  
市立体育所で開催。参加十六チームであ  
つた。即北門、農檢、工學部、帝麻、道  
廳、タイムス、碌々商會、ビール、苗工  
拓銀、西部青年、老球、鐵道、水電、富  
貴堂、一中である。老球が優勝した。準  
決勝及決勝戦績は次の通りである。準  
決勝  
老球四―一タイムス 老球三―一西部  
老球四―一北門 老球三―一藤田  
西部三―一タイムス 原野三―一三井  
西部三―一老球 石井三―一三井  
北門三―一二タイムス 八代三―一二今野  
北門三―一二西部 前田三―一二本間  
○岩見澤教諭對タイムス卓球戦 十一  
月二十三日岩見澤高女コートで開催。第

一回戦一對七、二回戦四―七で何れもタ  
イムス大勝した。  
○札幌師範、工業、タイムス卓球試合  
昭和二年二月十三日札幌エノミストコ  
ートで開催。練習試合を行つた。  
○卓球練習試合 全國卓球聯盟會派遣  
の本邦選手権保持者鈴木貞雄氏、東京城  
南俱樂部井坂氏、瑞穂俱樂部高村氏、海  
軍省大門氏を迎へ小樽卓球協會主催で八  
月二十四日安田銀行コートで練習試合を  
行つた。  
○卓球札幌代表選手権大會 十一月二  
十一日工業、碌々、中央創成、苗工の各  
コートで行はれた。

相撲

本道の相撲は全國に比を見ないほど盛  
んでまた普及された競技である。七月初  
めから東京大相撲常の花、大の里一行が  
乗込み相撲熱を大いに高め、全道到る處  
に肉弾相撲の盛況であつた。主なものを  
挙げれば  
○國産博素人相撲 八月上旬博覽會場  
内で開催約五十名の力士が奪鬪した。  
○中等學校競技聯盟大會相撲競技 八  
月五日札幌工業學校々庭で開催された。  
結局札幌師範優勝し北中は第二位であつ  
た。得点は札幌二十九點、北中二十二點  
樽水二十點、函師十八點、であつた。  
○全道青年相撲大會 八月十五日帯廣

町に開催、力士全道青年中の粹を集むる  
八十名。十勝相撲協會主催であつた。協  
會では毎年一回帯廣で大會を開き番付を  
作成する事になつてゐる。當日は土俵の  
肩上競技が行はれ三十貫土俵を肩に上げ  
たもの十名、三十五貫四名四十貫はな  
かつた。  
○歌志内青年相撲大會 八月十五日空  
知礦グラウンドで開催、参加十支部青年  
團、優勝旗は東光青年の手に歸した。  
○全道小學校相撲大會 北大主催、東  
日新聞後援九月二十四日北大角力場で開  
催した。参加校尋常九校、高等八校、て  
優勝校は尋常共東北小學校であつた。  
○北大角力部各科リグ戦 九月二十  
五日同學で行はれ水産科優勝しカップを  
得た。  
○芽室素人角力 九月二十六日札幌、  
小樽、旭川、釧路地方の力士參集し未曾  
有の盛況を呈した。  
○神宮角力戰北大選手 北大では大學  
専門學校相撲大會に選手派遣のため東京  
力士であつた白浪關にコーチを依頼して  
練習豫選の結果、清水、水上、宮川、池  
田、西岡、村上、畠山の諸君を送り、好  
成績をおさめた。

スキー

北海道にスキーの始めて入つたのは明  
治四十四年二月、北大講師瑞西人故ハン

スコララ氏が携帶したのが最初で、一  
般に普及させて呉れたのがオーストリア  
大使館武官レルヒ中佐で、中佐は四十五  
年一月旭川師團に來て三十七名の軍人に  
コーチした。三瓶少佐はその時にコーチ  
を受けた一人で、同少佐によつて本道民  
間に紹介せられ、全日本スキー聯盟會長  
稲田氏も當時北大で熱心に練習し同氏に  
よつて北大文武會にスキー部が置かれ、  
爾來北大はスキー界の中心として貢献し  
今日この隆盛を見、運動のみならず、軍事  
に、交通に、遞送に、通學にスキーの眞  
價を發揮するに至つた。北大では十五年  
十一月廿五日スキーで十五週年記念式が  
あげられた。この記念事業として手稲山  
にスキーヒュッテが建設された。これは  
約二千尺の高地にあつて故コララ氏の  
義兄ヒンデル氏の設計になり純瑞西式の  
小屋で階上階下十五坪六十名を收容出來  
る本邦唯一のスキーヒュッテである。此  
他記念事業としては出版物頒布。スキー  
参考品展覽會等が行はれた。更に大正十  
五年度には全日本選手権大會が札幌で行  
はれる事になり、札幌市は特別支出をし  
て三角山に東洋一と稱せらるゝ理想的の  
シヤンツエの竣工を見た。斯くして本道  
はスキー界の本場として名實を具へるに  
至つた。スキー選手権大會は諒闇中で中  
止されたが、地形と云ひ雪質といひスキ  
ーに最適である北海道に之等の施設を見

た事は喜ばしい事である。北大スキー部  
の大正十五年中の計畫は左の如くである  
スキー展覽會十一月廿二日―廿四日  
冬期合宿青山温泉十二月下旬  
選手合宿一月一日  
羊蹄山登山 合宿歸途  
手稲初登山 一月一日  
手稲山、奥手稲、三段山、余市岳登山  
一月中。  
北海道スキー選手権大會 一月廿一日  
手稲、奥手稲、暑寒岳、芦別岳、夕張  
岳登山 二月中  
手稲山下降競争 二月十三日  
札幌對抗スキー競技會 二月廿七日  
北大スキー部大會 二月二十七日  
春季合宿 三月下旬  
中山峠、十勝岳方面三月中。  
北大スキー部の外に小樽スキー俱樂部が  
あり札幌スキー俱樂部其他各地のスキー  
俱樂部及高等商業學校各中等學校のスキ  
ー部等何れも計畫を立て、目覺しい活躍  
をしてゐる。北海タイムス社は北海道ス  
キーを廣く紹介する目的で活動寫眞部に  
撮影せしめた。映畫中に妙妓を見せて居  
るのは、北大スキー部の重鎮である廣田  
相川、伊藤、岡村、齋藤の諸君で、我國  
のスキー映畫「シーハイム」の完成も近  
日中にある。  
スキーレコード(第二回選手権大會)  
大正十四年一月二十四日



北海道山岳會主催  
 一〇 今井 誠一君 四分五三秒  
 一六 岡村源太郎君 四分三三秒  
 四 岡村源太郎君 四分三三秒  
 二五 岡村源太郎君 四分三三秒  
 ジャンプ  
 アルプアシャンツェ  
 末武 久君 一八點六三  
 神 澤君 二一米

二四 杉リレー 綠陵クラブ 二時一分一九秒  
 一六 杉リレー 商 組 一時九分二七秒

スケート

スケートもワキンタースポーツとして  
 本道には古くから盛に行われてゐるが地  
 理的關係から札幌、旭川、苫小牧方面に  
 盛である。小樽は山に圍まれた關係から  
 適當なボンドがなくスケーターに満足な  
 與へられない所から、小樽スケート協會  
 ては小樽公設グラウンドで臨設ボンドを  
 完成した。臨設ボンドは本道に於ける最  
 初のものである。札幌中島リンクは完備  
 したもので近年多大の人氣を呼んでゐる  
 アイスホッケーは大底此のリンクで行は  
 れる。一月二十二日には北大スケート部  
 主催で全道中等學校ホッケー戦が行は  
 れたが、参加校は札幌師範、札幌第二中  
 北海中學、札幌工業、札幌商業、苫小牧  
 中學の六校で準決勝で札幌は二中に勝ち  
 苦中は札幌に勝ち決勝戦で苦中は札幌を

破つて大勝した。二三年前から全國唯一  
 を誇つた札幌スケート協會のアイスカー  
 ニバルは今年に諒閣中で中止となつた。

其の他の運動

○撞球、全道に甚だ盛んであるが、札  
 幌に於ては特に盛んで撞球場の數六十六で  
 伊藤、黒田、馬島、園田諸氏の高點者を  
 有し漸次ホーグラインに移りつゝある。  
 世界的選手山田浩二氏は晩秋小樽、札幌  
 を來訪、その妙技を一般に公開して、撞  
 球愛好家に大なる感動を與へた。

○マラソン 本道のマラソン界は常に  
 優秀な選手を生んでゐるが、十五年夏九  
 月マラソン王として有名な日比野寛氏は  
 北大で講演後、實演をして見せた。小樽手  
 宮青年の伊藤、兵藤、中西三君は八月八  
 日北海道横断マラソンを決定し小樽根室  
 間を九日で快走した。八月十四日歌志内  
 青年團佐藤(忠)、若狭、佐藤(勇)、對馬  
 四君は歌志内小樽間マラソンを決定した  
 札幌工業學校十周年記念日札幌マラソン  
 を行つた。北海商業徒歩部では同部池田  
 菅野兩君が旭川、札幌、小樽の三都訪問  
 マラソンを企て八月五日名寄發八日小樽  
 に到着した。  
 ○籠球 明治神宮競技豫選全道籠球戦  
 は十月二日札幌附屬運動場で行はれたが  
 参加校は市立高女、北海高女の二校八チ  
 ームであつた。男子部は同好、笛聲、モ

ンスター、旭師、ヨイラン、スター、北  
 洋、北中、二乙、東青年、札幌、等であ  
 った。岩見澤中學籠球大會、十一月十三  
 日同校屋内運動場で開催。  
 ○蹴球 十月九日北大グラウンドで豫  
 科對小樽高商ラグビー蹴球戦が行はれ、  
 全道中等學校競技聯盟蹴球戦は八月三日  
 第二中學校グラウンドで開催札幌、北中  
 一中、函商の四校が準決勝に入つたが北  
 中、一中の決勝戦となり遂に一中が優勝  
 した。

○乗馬 各地に乘馬會があり遠乗及練  
 習をしてゐるが、北大馬術部鹽野谷教授  
 引率で學生四名、北海道長途騎乘隊を  
 組織し七月中旬長途の騎乘を行つた。  
 ○漕艇 小樽漕艇協會主催小樽實業團  
 漕艇大會は九月五日開催、北海製鐵及K  
 Iクルー優勝した。同時に札幌漕艇競争  
 があり小樽側が破れた。

競馬

本道に於ける札幌競馬及函館競馬は我  
 國に於ける最も有名な競馬に加へられ、  
 全國的興味を集めてゐるが札幌函館以外  
 本道には苫小牧競馬、日高競馬、岩見澤  
 競馬、十勝競馬等があり、單に一種の競  
 技でなく畜産上優良産馬の獎勵及畜産思  
 想の普及に益する所が大である。  
 ◇開催日 札幌函館苫小牧は春秋二回  
 日高岩見澤十勝は九月に一回開催される

創立大正三年十二月  
 資本金壹千八百万圓



樺太工業株式會社

本社 樺太泊居町

工場

和洋紙 樺太泊居  
 パルプ 樺太眞岡  
 樺太惠須取

出張所

東京市丸の内永樂町二丁目  
 富山縣伏木町新島  
 小樽市南濱町六丁目

營業 和紙製造販賣  
 石炭採掘販賣  
 電力電燈供給  
 科目

資本金八百万圓

小樽市南濱町六丁目七番地

樺太汽船株式會社

出張所

本店 東京市麴町區永樂町二丁目  
 電話 五七八番 二九七八番



紙店

札幌市北二條西二丁目  
**中田紙店 札幌支店**   
 中田治 檢 (電話三二一八)

三ノ一

旭川 野付牛 釧路 帶廣 秋田

事務 事務 事務 事務 事務所

北海道電燈株式會社

二ノ一

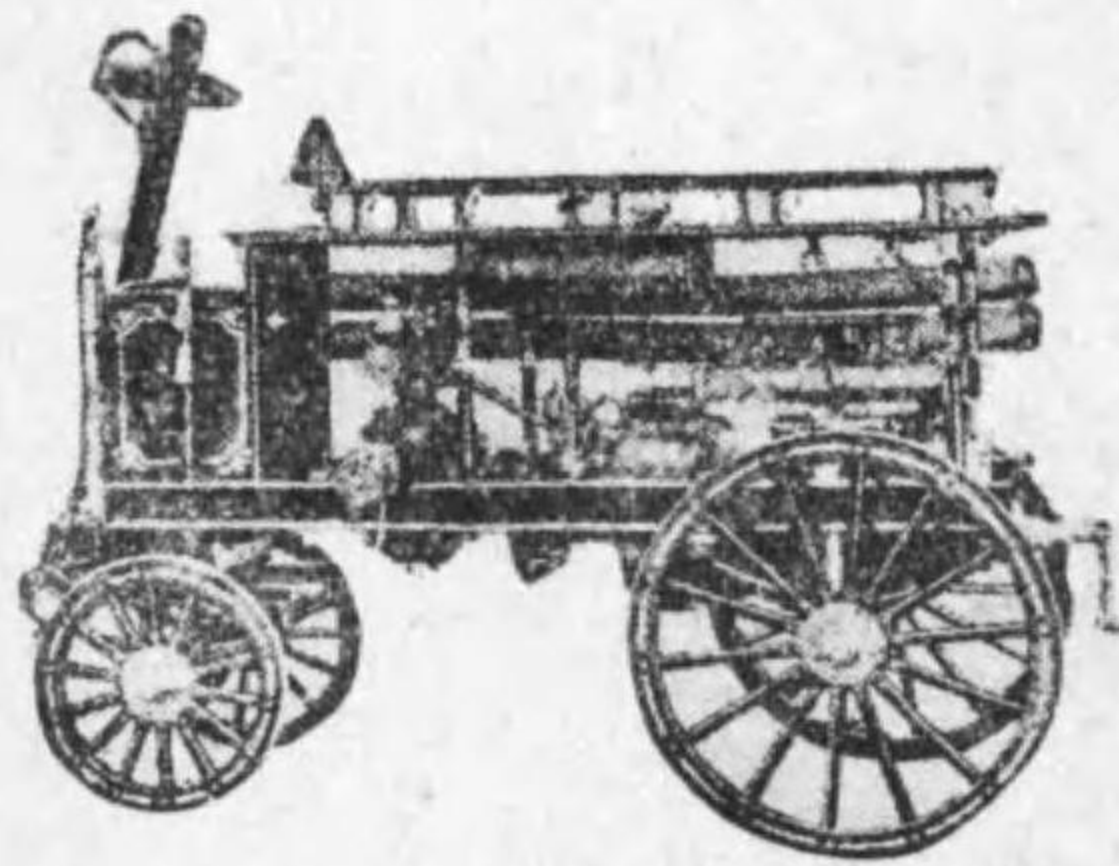


札幌市北一  
電話 六一三  
電略 二八二

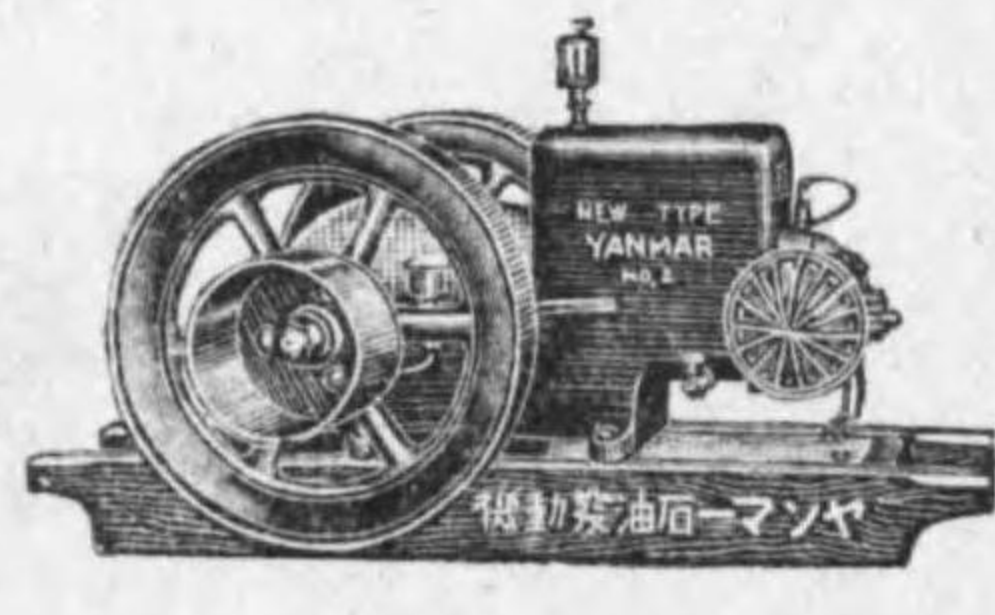
**二商会**

ヤマンフォーセツト式  
灌漑用ポンプ  
土工用ポンプ  
風呂釜類

ニガソリリ唧筒



特許  
ヤマン石油エンジン



か  
い  
み

板硝子類 硝子類  
製 山山口美硝堂  
札幌南二 東二 振替小樽八二〇  
電話 二九四  
鏡 硝子類

にノ五

營業課目

活字、對、輪廓  
印刷、諸機  
版、木、機  
活版、銅、鉛  
電版、鉛、版  
紙型、鉛、版  
印刷、鉛、版



黒田活版製造所

札幌市北三條西二丁目一番地

電話番號 一七〇二番  
振替口座小樽 四三八五番

函館支店・函館市高砂町十四番地  
小樽支店・小樽市色内町日本銀行裏通り  
權太支店・豊原西一條南一丁目(叶座前)  
旭川代理店・旭川市六條八丁目高杉豊榮軒

にノ四



書籍 文房具  
國定教科書販賣所

# 維新堂書房

札幌市南一條西四丁目十字街  
電話 六二二三番

小樽市色内町七丁目二十番地



# 北海道銀行

振替貯金小樽 二二三二番  
電話代表番號 二八五〇番

## 支店出張所

小樽永井町、札幌、同南一條西十一丁目、岩見澤、瀧川、旭川、富良野、東旭川、士別、名寄、風連、稚内、紋別、遠輕、美幌、本別、池田、厚岸、浦河、靜内、苫小牧、室蘭、西紋、虻田、余市、余市、大川町、古平、美國、積丹、神惠内、岩内、岩内鷹臺町、俱知安、磯谷、八雲、江差、増毛、留萌、鬼脇、鴛泊



資本金 壹億五千萬圓  
頭取 安田善次郎

本店 東京市麴町區永樂町

  
株式會社 安田銀行

小樽支店 小樽市色内町五丁目

電話 三九・七二六・一四八四  
出張所 一八六二  
稻穂町出張所 小樽市稻穂町八丁目

道内支店

小樽 函館 室蘭 釧路  
根室 帶廣 網走 野付牛

全國支店出張所  
百四十余个所

明治十二年創立

函館市末廣町九十七番地

  
株式會社 百十三銀行

電話 一三三 四三番  
四四 一三三番  
振替口座 東京 五二五番  
小樽 二二四番

支店所在地

東京 小樽 旭川  
函館市内 地藏町 辨天町 若松町



品 質 本 位

安 全 第 一

森永ミルク  
森永ドライミル  
森永ドブレミル



森永ミルク森永ドライミル  
は合理的製造法に立脚し  
乳児發育上絶対必要なる  
イタミン及び各榮養を保有  
する、正しき母乳代用品で  
す。

にノ一〇

北海道旅行

青函連絡

津輕海峡 午後一時上野驛を發した  
急行は翌日の午前六時三十分早くも本州  
の北端青森驛に着く。此所から北海道へ  
通ふ連絡船は二つある。一は室蘭へ向ふ  
北日本汽船株式會社の經營に係る逕信省  
の補助航路であり他は函館に向ふ鐵道省  
經營の青函連絡船である。青函連絡には  
三千五百噸級の客載貨車渡船翔鳳、津輕  
松前、飛鷹の四隻及び比羅夫、田村の一千  
五百噸級の二隻の汽船とが之に従つてゐ  
る。ことは既に交通の項で述べた通りであ  
る。

青森港を出帆した船は陸奥灣を北へ北  
へと進んで行く。左には津輕半島、其上  
に聳えてゐる津輕富士を眺め右には下北  
半島突出し前者と相對して活火山恐山が  
衝立つてゐる其下には大湊の海軍要港が  
ある。此航海中北海道への初旅の人は黙  
々の裡に、函館へ行つたら熊が出ないだ  
らうか、アイヌが澤山蠢めてゐるでは  
なからうかと種々連想する。津輕下北の  
二半島はやがて後に遠のき船が津輕海峡  
に入ると渡島半島は行手にあたつて夢の  
様に浮んで来る。左手には白神岬、右方  
には恵山岬を眺めながら船は六十海里の

北海道旅行

航路を函館へと進んで行くのである。函館  
山を廻り、町の東南臥牛山麓に進行し山  
高く水深き巴の港、憧れの北海道へ、青  
森を發して四時間半の後、着くのである  
連絡棧橋 さしもの大きな船も鐵道  
省の大規模な棧橋にヒタリと横付けにな  
る。乗客は船の昇降口から廊下傳ひに連  
絡待合室に入ることが出来る、往時の様  
長時間静かに揺られ雨に打たれる心配は毛  
頭なく更に奥地に行く人達は直ぐ棧橋迄  
来てゐる連絡列車に乗つて出發する様  
極便利に出來てゐる。待合の設備は充分  
整ひ、休憩室、婦人室、賣店、食堂、化  
粧室其他萬般に行亘つて乗客に何等の不  
便を與へない。此所に始めて北海の第一  
印象が刻されるのである。

函館市

位置、面積、人口 函館市は北海道の  
表支關で臥牛山麓に展開し東西二里十四  
町南北一里二十六町、人口十六万四千を  
有し、あらゆる近代的施設を備へ市況頗  
る殷賑を極めてゐる。  
沿革 函館は昔寶徳年間に河野加賀  
守政道が此地に館を築き其形箱に似てお  
たので箱館と稱したのが地名になつたと  
云はれ其後明治二年八月函館と改稱する  
に至つた。元松前藩の所領であつたが寛  
政十一年幕府は蝦夷地警備の必要から東  
蝦夷地を加へ之を直轄し各漁場に對する

直捌の方法を設け箱館をその根據地とし  
た。享保元年には此所に造船所を設け二  
年には奉行を在勤せしめ降つて安政六年  
には五港の一として開港を許したので米  
露、英の諸國は此所に領事館を開設し住  
民は益々多く船舶は常に輻輳して漸次繁  
盛に赴いた。而して維新後明治二年には  
榎本武揚等所謂佐幕黨の志士が艦船を率  
ゐて江戸を脱走して此地に據り、官軍に  
抗するに及んで彼の函館戦争となり、爲  
めに町勢一時疲弊するに至つたが其年七  
月開拓使を置き此所に其の出張所を置か  
れ開拓使長官の來任するに及んで市民は  
漸く其の堵に安んじ生業を恢復するに至  
つた。

現況 爾來日に月に市況益々活潑とな  
り今や内地本道の連絡港とし又露領出漁  
の策源地且本道水産物の輸出港として本  
道に覇を稱へるのみならず世界的の良港  
として其名を爲すに至つた。  
函館の町を見物するには先づ函館公園  
に上つて見る必要がある。驛前から電車  
に乗ること南へ二十二町、西南に近く臥  
牛山を負ひ北は巴港に面し、眼下に函館  
全市を見る形勝の地である。五稜廓、湯の  
川、駒ヶ嶽一帶の風光は亦目睫の間に迫  
り、更に後方津輕海峡萬頃の波光を隔て  
雲烟模糊の間に陸奥の山影を望むこと  
が出来、園内入口に近い摺鉢山からは眺  
望更に快潤である。園内の設備は良く整

五五五



ひ、水産陳列場や圖書館等がある。陽春五月には梅も櫻も一時に咲き出てて妍を競ひ札幌圓山の櫻花と共に北海の双壁と云はれ初夏の頃は木の葉に風ゆく薫り其風光筆紙に盡し難い程である。市内には前記の建物の外函館ドック會社、博物館、無線電信局、國幣中社函館八幡宮、東西本願寺別院、函館機寸工場等の工場をはじめ諸官衙、會社、銀行、其他旅館、旗亭等結構壯麗を極めてゐる市中には電車及自動車縦横に馳走し前には波緩かな巴灣を擁し船舶の出入頻繁である。青森との間に一日三往復ある外此地を根據とする定期命令航路、自由定期航路等随分多い(交通の欄参照)尙汽車は一日十四回の發着がある。以上の外本市には要塞の設けあり大湊と相應じ太平洋と日本海との咽喉警備に當つてゐることを忘れてはならない。

渡島支廳管内

渡島支廳管内概況 當管内は渡島國一圓及膽振國の一部に亘る面積二百四十二方里七、五郡二十六ヶ町村で、本道の南西部に突出する渡島半島の東部を占め北は後志膽振兩支廳管内に接し東は太平洋に臨み西は檜山支廳管内に隣し南は津輕海峡を隔て、遠く陸奥國と相對してゐる。渡島支廳は函館市に在つて文安年間河

野氏の館趾であつた。享和二年以來幕府茲に箱館奉行を置き明治元年以來裁判所函館府、開拓使出張廳、函館支廳、函館縣廳、函館區役所、長官出張所等皆これを此所に設けた。又明治元年榎本武揚一時之れに據つた。九年七月 明治聖上臨御執務の状況を觀覽し給ひ同九月三條、寺島伊藤の諸公臨廳民情を聽き勤務の状況を視察せらる。十四年九月 聖上北巡の際北白川宮殿下臨執務の状を見給ふ。二十六年十月廳舎改築成り三十二年函館支廳を廢すると同時に龜田支廳を茲に移して函館支廳とした。三十六年十二月松前支廳を廢し其管下を函館支廳の管内に屬させた。明治四十年八月大火の際類焼の災に罹つたので函館區役所内に假廳舎を設け四十二年十月廳舎新築の功成つて移轉した。現在の廳舎は即ち是れ大正十一年八月渡島支廳と改稱せられたのである。大正十四年十月現在人口十六万二千にして同十三年に於て生産額左の通り

察要所を左に掲げよう。五稜廓 五稜廓から東南十九丁、函館市から電車の一里十町の所にあつて、函館市から出る。五稜廓停留場から數丁行くこと老松森々たる五稜廓に着く。此地は安政三年に箱館奉行が其政廳に充つる爲めに蘭學者武田斐三郎に設計させ元治元年に竣成したもので延長千五百間坪の五稜形を成す壕を繞らし地積五萬四千坪に達するものである。明治二年榎本武揚大鳥圭介等幕末脱走の徒が比所を根據とし最後の決戦を試みた事は人の良く知る所である。陸軍省の用地ではあるが今函館市で借受け諸般の設備を加へ公園としてゐる。松樹茂り花樹多く昔を偲び今を樂しむによい所である。大正十一年から史蹟名勝天然記念物の中に保護せられることになつた。湯川温泉 函館市から電車及自動車の便があつて二十分内外で達することが出来る。此温泉は北に岳陵を負ひ南は松倉川の流れ清く西には大森灣を控へた高燥な地で風光頗る明媚である。泉質炭酸アルカリ性に富み諸病に治効があると云はれ四時浴客遊覽者が絶へない。天使園 (トラヒスト女修院) 湯の川温泉から東約三十町松倉川の清流に臨む高燥の地で展望頗る佳絶の地である。茲に不言教を奉ずる婦人三十餘人を收容し只

管敬虔な神道を修め傍らパター製造及牧畜に従事してゐる。又建物の壯麗、庭園の設備觀るべきものがある。然るに大正十四年十月十六日火災に見舞はれ、今は舊舎で修行を續けてゐる。此處への入院資格は天主教會の信者に限り十七歳から二十五歳までの女子で父母及聽罪師の承諾あるもの、現在にも將來にも返済すべき負債なきもの、身體健全で罪惡の汚れなきもの、家族の係累なきものなどが主なる條項でいづれも一聖い一人の靈は千人の罪の購ひをするといふ絶對理想の下に愛着のきづなを斷つて、極端な禁慾生活をつづけてゐるのである。

製酪に従事してゐる處である。世に有名なるトラヒストのパターは此處からの製品である。この地は背後に山を負前面に海を控へ附近一帶の原野は一面の牧草をもつて蔽はれ、夥多の牛や羊の群が悠遊するあり風光頗る詩趣に富んでゐるとの事である。修道院の後方數丁の山腹に聖母マリアの出現を象つて作れる巖窟あり、ルルドの巖窟といひ、四邊蒼蒼の樹木に蔽はれたり寂として音なく、折々修道院の鐘の音響きて静寂を破るのみであるといふのである。淺野セメント會社上磯工場 函館驛から七哩五分上磯線上磯驛の所在地にあつて工場建坪一萬二千三百坪で職工労働者二千八、生産年額百八十萬樽一千萬圓以上にする。此會社は明治三十三年の設立で附近の石灰石を利用してゐるのである。福山町 上磯から福山街道を進むと古の松前藩の居城地たる福山町に達する。四百年の歴史を有する本道最古の史蹟を存し、其松前城は慶長五年松前慶廣の築いたもので北海道統治の中心として内地から北海道へ行くには必ず此所に上陸したものである。従つて當時松前三千軒とも云はれ本道唯一の城下町であつたが廢藩の後衰へ、函館、室蘭等の開港せらる

に及び交通の中心から遠ざかつたので今日の衰頹を來し人口僅かに五千足らずである。今公園となつてゐる城跡は徒らに往年の隆盛を偲びしむるのみである。園田農場 結梗驛から北九丁の所にある。明治八年開拓使が撰んで牧場とし今は園田氏の所有となつてゐる。放牧地山林、畑地、水田、六百四十餘町歩、馬牛百數十頭を有し、大正天皇東宮にましませし頃本道行啓の砌、御立寄あらせられる。大沼公園 函館驛から十七哩五分大沼公園の所在地。一帯は大沼公園である。園の面積四百二十七萬七千六百九十九坪、中大沼小沼尊菜沼の三湖あり。軍川、大沼の兩湖は其園内に置かれてあり。仰げば北に海拔三千七百六十二尺の活火山駒ヶ嶽の奇峰天に聳ゆ、東に横津嶽、南は藤山無澤等の山嶺連互して湖水を繞り、俯せば百十有餘の大小の島嶼鏡の如き碧水に浮び白帆其間に片々するあり。湖岸には公園の廣場あり主要の島々には皆完全な橋を架け立派な道も通じてあり、半島から島に、島から島に渡ること出来岸を繞り丘に上り樹木を潜つて遶ることも出来る。尙東郷島には東郷元帥の、又廣場に近い半島には大山元帥の銅像がある。湖の周圍には遊覽道路があつて周遊することも出来る。公園の中



には宮城縣の金華山から鹿を移して設けた鹿園及カナダから黒狐を移して設けた養狐場「新日本三景」の碑及び東本願寺の移民碑等があつて美觀を添へてゐる。かく天然の佳景に加ふるに人工の美を以てし實に雄大と織巧とを併せざる絶景で、寔に新日本三景の隨一と稱せらるゝも宜なるかなである。宿舎遊覽の設備完全し花の五月から紅葉の十月までは遊覽滯泊する者多く、冬は蕭々たりと雖も湖面堅く結氷し、スケーティングの快走に又一入の賑ひを呈してゐる。

大沼養狐株式會社養狐場 此地に在る、尙詳細は畜産業の欄参照

大沼養狐株式會社養狐場 此地に在る、尙詳細は畜産業の欄参照  
大沼養狐株式會社養狐場 此地に在る、尙詳細は畜産業の欄参照  
大沼養狐株式會社養狐場 此地に在る、尙詳細は畜産業の欄参照

現在道勢と、北方の後進地方の急速な發展に想到せば尙振興促進を期さねばならぬので現當局者並管内民一致して天然の資源開發、遺利の收得に善所せんと努めてゐる状況にある。

尙古い歴史を有つ管内も、現在の交通文化の象徴と云へば既に古い其鐵道一哩も惠まれてゐない哀れな状態にある。然し今回の第二期拓殖計畫の樹立により國縫瀬棚昭和七年度完成となり既に昨十五年度に國縫茶屋川間五哩の起工を見るに至り、同じく渡島支廳の木古内より江差までは昭和十年度完成の事追加豫定された。此豫定線完成の曉は管内の發展も著しいことであらう。

汽車は之から海岸を離れて走つて行く

檜山支廳管内

管内概況 檜山支廳は渡島國中の二郡と後志國中の四郡、合計六郡十三ヶ町村を管轄してゐる。東西四里餘、南北三十里餘に亘り其面積百八十三方里七二にして佐賀縣よりも二十五方里餘廣く其他神奈川、沖繩、東京府、香川、大阪府等の府縣より廣い。尙遙に江差町を去る三十三海里半の海上に周圍二十一里餘の奥尻の孤島がある。

元來檜山の開發は其緒古いのであるが其の功程遅々として振はなかつたが明治三十年十一月、從來の郡役所制を改め、檜山支廳を設置せられてから漸次普遍的開發の實現を見る事が出来るようになった。今日に至つたのである。

今大正十四年の一般趨勢を掲げよう。  
一、人口 六八、八四五人  
一、生産總額 一三、二五五、八〇八圓  
一、戸當 一、一〇五圓  
一、其中重要産物  
水産 七、一五六、七一四圓  
柔鰯 二、九六九、二八九圓  
鰯 二、二七三、二五二圓  
米 四、七二四、八四三圓  
大豆 一、四〇三、一三六圓  
一、二九一、九五九圓  
然し駁々として拓殖民の進展にある

徳川農場 八雲驛所在地にある。八雲村は明治十一年舊尾張侯徳川慶勝氏が舊臣授産の目的で渡道し茲に官有地の無償附與を受け開墾したことに依つて發展し現に八雲町は人口一万二千三百四十一人を有する様になつた。農場の地積四千町歩で其生産物の主なるものは大豆、燕麥、馬鈴薯等である。尙附近に大橋農場、人工鰯化場、八雲驛から西南三里廿三町歩セイヨウワヅにある。遊樂部鮭魚蕃殖組合の經營に係りアトキンス式孵化盆を用ひ優に一千万粒の孵化に堪える附近の風光又明眉興趣に富む。  
舊土人部落 八雲驛から北十三町内浦灣の沿岸遊樂部演劇にある人口約九十人戸數十七戸主として漁業農業で生計を立てゝゐる。  
長萬部 オシヤマンベと讀む、アイヌ語でオシヤマンは蝶の義、ベは場所の義で蝶の居る所の義である。これに和人充字して長萬部と書く。此地から室蘭の輪西に海岸傳ひに通ずる長輪線の分岐點で今は同地から六哩六分ある靜狩迄通じて昨年禮文に至る迄の内一哩五十鎖の起工を見るに至り本年度内に全通の豫定である。若し全通の曉は交通都市として發展見るべきものがあらう。長萬部川の流域は地味肥、豆類馬鈴薯の産が多い。

を遮るものがないのが遺憾である。現在函館本線函館驛から自動車の便がある。今回第二期拓殖豫定線に加へられ、其曉には蘇生の思するであらう。  
奥尻島 瀬棚の西南海上に在り一島一郡一村で人口六千六百、漁業等が行はれ殊に硫黄の産額四千二百噸十七萬餘圓を産し北海道第一で、北海道硫黄株式會社の經營に屬してゐる。(大正十四年末調)

後志支廳管内

管内概況 後志支廳は元小樽、岩内、壽都の三支廳管轄区域一圓と室蘭支廳管轄区域の一部である狩太、眞狩の二村とを併せ明治四十三年三月一日後方羊蹄山麓俱知安村(今は町制實施)に設置せられた。開墾當時の管轄は十四郡三十ヶ町村であつたが爾來開拓の進歩に伴ひ之を分割して新に町村を設け現在(大正十三年)に在つては三十三ヶ町村二百七十五方里を管轄してゐる。北は日本海に面し東は石狩支廳管内に接し次方に中部に展開し虻田郡の曠原と岩内郡の平野を連ね西端は金鷲が左翼を伸べた様に遙に延亘して檜山支廳管内に接し其嘴は積丹半島となつて十里海洋に突出してゐる。  
管内の開拓は漁業に其端を發し漸次農業を誘致し今日に至つた且明治三十七年函館鐵道の開通と後岩内、京極、壽都の

各支線開通するに至り大に交通運輸の便を得移民の來住物資の集散逐年繁きを加へた爲め地方の開発眞に著しいものがある。今大正十三年度につき其趨勢を掲げよう。  
人口 一七三、三四〇人  
生産總額 四三、四七六、五〇七圓  
一、戸當 一、三六七圓  
重要産物  
水産 二四、一〇五、五五八圓  
鰯 八、五二二、一四二圓  
身欠鰯 二、八九九、八〇五圓  
鰯 二、五〇五、三六二圓  
鰯 二、四九一、六二二圓  
農産 一四、七二四、〇〇三圓  
米 二、五七二、三七五圓  
馬鈴薯 二、二〇九、〇五三圓  
菜豆 一、六三八、二七七圓  
黒松内 長萬部より海岸を離れた汽車は末太川流域の地溝帯を走つて此地に着く。壽都鐵道の分岐點で人口四千五百を有する農村である。  
壽都港 町制が布かれ現在四千四百の人口を有し、後に山を負ひ前に海を抱いてゐるから漁港として申分なく、尙大正十四年度から町營として築港に着手し現在工事中に屬してゐる。近海水産に富み歌棄、磯谷と共に鰯の産地として知られ、函館、小樽へ汽船の便あり。將來に大いに望を囑されてゐる。



俱知安 クツチャンと呼ぶアイヌ語でクツは狩獵に用ふ小舎の意味で昔時此地方大に狩獵行はれたから此様に命名したのであらう。現在町制實施せられ人口約一万四千を有し、東方脇方に京極線を派し交通市と知られるのみならず東南に蝦夷富士巍然として聳え其麓を利別川の流るゝあり且西北には後志、膽振國境の連嶺に取圍まれた一大盆地地廣く且肥え農産物百五十六萬圓(大正十三年現在)を超え本管内第一位にして町内には後志支廳をはじめ俱知安中學校、警察署、營林區分署、北海酒精株式會社工場等あり地方政治經濟の中心地である。羊蹄山登りを此地からするものが多い。

は鯉、鮒、鰻等て水極めて清澄、湖岸には怪岩巨石所々に蟠り老樹鬱蒼として湖を繞り春の櫻夏の青葉影を湖底に沈め秋は紅葉錦を織り眺望絶景遊藝地として天與の別天地である。又貨舟釣道具貸付の備へがある。

植えられ廣大な面積一杯に満ち、て其年産額年八十四萬圓(大正十三年)に達してゐる。鯉の漁獲は三月中旬から始まり青森、秋田や南部方面から漁場出稼者が入込み各漁場に雇はれ五月末頃迄漁獲、脊びらき、身欠鯉、鯉締粕等の仕事をし五月末又は六月初めに大漁のわけ前ホロイ勞金を懐にして故郷に待つ愛妻の許へ歸るのである。

ら同十一年に至る間に札幌小樽間の道路を開き、十三年になつて鐵道を設け手宮に棧橋を架設する等漸次運輸の便を開いてから、道内の開發に伴つて萬般の物貨を本港に集る様になり商港としての第一歩を現はし漸次市街の狹隘を感じる様になつたのである。

料を合する時は一億一千四萬餘圓の多きに達してゐる。大正十五年中の輸出額一千五百十萬圓に上り年々増加の傾向にあることは既に述べた通りであるが、従つて商業活動にして市内には會社、銀行、工場、倉庫其他大店巨舖軒を並べて櫛比し其繁盛を思はせるものがある。且つ市中坂路多い爲め未だ電車の設備はないが乗合自働車及馬車は縦横に馳走してゐる其他文化都市の設備整ひ、上水道工事の如きは明治四十一年一月起工し爾來六年九ヶ月の星霜を經、百二十二萬二百二十餘圓の巨費を投じて大正三年九月竣工を告げた。其給水力人口十三萬人に對し一人平均三立方尺半(五斗四升)とした然るに其後市勢の發展に連れ人口の増加を來し不足を告ぐるに至り更に十一年七月二百四十萬圓の工事費に第二期擴張に着手し昨大正十五年七月竣成した其給水力合計十七萬人に對し一日一人五方尺としたのである。

署、小樽稅務署、札幌地方裁判所小樽支部、小樽區裁判所、小樽貯金支局等學校あり。小樽高等商業學校、其他中等學校あり。

市勢概況 本港は既に「交通並需給」の項で詳説した様に本道農産物及木材の中央市場として全道に其覇を唱へ、背後の石狩平野、旭川盆地、名寄盆地及十勝平原に産する農産物は殆んど全部當港に蝟集し、内外に移出されるのである(貿易の項参照)大正十四年中に於ける小樽取引所の取引出來高雜穀澱粉のみにても五千三百六萬餘圓で、これに米穀、鯉肥

前述の様に内外輸出入盛であるから本港を根據地とし又經由地としてゐる内外定期及命令航路多く出入の船舶も極めて多い。(交通の項参照)

管內概況 管内は石狩、札幌、厚田、濱益の四郡及膽振國千歳の一郡十六箇町村を管轄し、南は後志山彙重疊し北は増毛山脈を限り西北一帯は海に面し東は空知、膽振兩支廳管内に連り其中央の大部分は石狩平原で地形北に狭く南方に廣い其面積二百二十九方里で本道總面積の二十七分の一弱に當つてゐる。

石狩支廳管内



通りである。

生産總價格 三九、四二七、六二六圓  
 一戸當 一、八八九  
 農産物 一四、三七三、四五六  
 米 四、八八七、〇三一  
 二、六一一、六九六  
 三、六〇五、九三八  
 一、一一五、五三六  
 一、三四五、一六九  
 水産物 一、三四五、一六九  
 鮭 一、三四五、一六九  
 鱈 一、三四五、一六九  
 北海道工業試験場 北海道廳の所管  
 大正十一年五月の創立で、琴似驛を去  
 る北東四町の所にある。(工業の欄参照)  
 北海道造林合資會社 輕川驛の所在  
 地にあつて資本金卅萬圓地積千八百町歩  
 北海養殖株式會社手稻養殖場 (畜産  
 業の欄参照) 輕川驛から南十七町、地積  
 一町七反歩、飼畜加奈陀ブリス、エド  
 ワード鳥産現在銀黒狐百二十頭、最近皮  
 一枚二百圓乃至八百圓で倫敦へ輸出して  
 る。創立大正九年三月で合資會社高田  
 商會の經營であつたが十五年二月現在の  
 組織に變更した。現在牝四〇頭、牡三七  
 頭を飼養してゐる。  
 極東煉乳株式會社輕川農場 輕川驛  
 から八町乃至一里三十町にある。(尙詳細  
 は畜産業の欄参照)  
 石狩陸軍無線電信所 輕川驛を距る  
 五町の所にある。大正十年十月の創立で  
 第七師團の所管であつたが十四年七月陸  
 軍通信學校に移管され十五年四月から軍

用に支障なき範圍に於て一部逓信省に貸  
 與し民間の便に供してゐる。  
 鈴蘭の丘 無線電信所附近三町餘に  
 して有名なり。六月上旬に至り滿地咲  
 蘭の丘)がある。六月上旬に至り滿地咲  
 き亂れる時其清楚たる容姿鬱郁たる香氣  
 を慕ふて群集する者乃に及んでゐる。  
 農林省月寒種羊場 輕川驛から南二  
 里、札幌郡豊平町字月寒の高臺に在つて自  
 動車の便がある。(尙詳細は畜産業の欄參  
 照)  
 北海道廳種畜場 輕川驛から南二里  
 豊平町字眞駒内にある。(尙詳細は畜産業  
 の欄参照)  
 外人農家 丁抹人モーター・ラーセ  
 ン外家族四人、大正十二年九月入地し十  
 五町歩の主畜農を經營してゐる。(種畜場  
 内)  
 歩兵第二十五聯隊 輕川驛を距る一  
 里豊平町字月寒に在る。  
 定山溪温泉 輕川驛市内豊平驛から十六  
 哩二分定山溪鐵道の終點に在る。此温泉  
 は豊平川に跨り山水の絶景を兼ね旅館浴  
 場完備し、春は櫻咲き亂れ夏は青葉滴り  
 秋は滿山錦を織り冬は皚白の雪四邊を蔽  
 ひ四季の眺麗しく、温泉河岸に噴湧し泉  
 質單純泉食鹽泉に屬し、無色透明で攝氏  
 九十四度、酸性の反應を呈しリユーマチ  
 ス其他諸病に特效ありて遊覽療養の客四  
 季樓に満ちてゐる。

尙附近に豊羽鑛山あつて金銀銅を産し  
 且つ札幌水力電氣株式會社の發電所があ  
 る。  
 石狩川治水工事 事務所は札幌市北  
 一條東二丁目にあつて、ビトイ、生振に  
 掘鑿機數臺を据付け目下工事中。  
 野幌原生林及林業試験場 野幌驛か  
 ら南一里廿五町道廳の經營である。廣茫  
 三千町歩、一寸見た所大木があると思  
 はれないがそれは大木ばかり揃つてゐる  
 密林地帯だから大木が目立たないの  
 札幌の植物園にあるエルクの大木など  
 ざらにも寄りつけぬほどの大木がある  
 此所て毎年北海道林業會主催で野幌林間  
 夏季大學が開かれてゐる。試験場は此地  
 て苗圃人工林天然更新利用等各種の試験  
 を實施してゐる。蓄材二、七三、一、三、  
 富士製紙會社江別工場 輕川驛から  
 十一哩一分江別驛の所在地にある。資本  
 金三千五百十五萬圓、工場建物煉瓦造二  
 万三千五百坪、原料消費年額原木四六一、八  
 五〇石、碎木パルプ七二、〇二八、五〇  
 九封度、硫酸パルプ二八、〇八七、五一六  
 封度、産年額新聞用紙類八四、三〇〇、  
 四九〇封度、包紙又ハトロン紙一、八六  
 〇、七四三封度を産し、一晝夜に新聞用  
 紙十三萬封度即ち新聞紙に換算して二百  
 八十八萬八千九百枚を生産する日本有數  
 の工場て多く小樽、室蘭から海外へ、鐵  
 道で内地へ輸送せられる。

江別町

江別川と石狩川と相會する  
 所に發達した町で、鐵道の不便な當時は  
 木材は多く石狩川上流から筏で此地へ集  
 つて各地へ散ぜられたものだが今は富士製  
 紙の工場によつて一層盛況を呈し人口一  
 萬八千を有し管内第一の町となつてゐる  
 石狩川河口の石狩町を起點とする石狩川  
 線は此地を終點として上川丸、千代丸の  
 二隻航行してゐる。(交通の欄参照)  
 石狩町 石狩川の河口左岸にあり、  
 本道開拓當時本道奥地入の門戸として又  
 漁業の根據地として榮えたが、鐵道の開  
 通と漁業の衰微と、港形の悪しきとによ  
 り今日の衰微を來したのである。今は鮭  
 の産地として知られ美味なこと本道第一  
 札幌から馬車鐵道で茨戸まで行きそこか  
 ら船で下る。人口八千五百。

札幌市

位置及地勢  
 札幌市は函館驛から一七九哩一分、函  
 館橋樑驛午後一時發の急行は九時間を要  
 して同日午後十時には札幌に着く。  
 此地は一望際涯なき石狩の大平野を東  
 北に控へ、手稻藻岩の群巒を西に望み、  
 豊平の清流南東を貫流してゐる。四方は  
 白石、豊平、藻岩、琴似、札幌の諸村落  
 によつて圍まれ、地勢南北に長く東西に  
 短く其面積東西一里十三町餘南北二里二  
 丁餘周圍約七里に達してゐる。

市街の區劃は井然として宛も碁盤の目  
 の如く、中央を東西に貫いてゐる一帯の  
 廣衢は火防及逍遙の地て其幅約六十間之  
 を大通と呼び之を基線として南北に區劃  
 し南何條、北何條と云ひ又其南北に串流  
 して排水に便してゐる創成川を基線とし  
 て東西に區劃し東何丁目西何丁目と唱へ  
 其道幅は大通約六十間、停車場通二十間  
 其他は十五間乃至十一間、裏通は六間て  
 街路廣潤、區劃宛も碁局の様であるから  
 本市を以て都市の典型と稱するもの無理  
 からんことである。

沿革

札幌の名はアイヌ語でサトボロと云ひ  
 乾いた廣い場所の意味で昔時大河の汎濫  
 した所が乾燥して廣い陸地になつた所て  
 あると云ふ。  
 札幌の往時の状況は文献紛雜して詳て  
 はないが、安政萬延の頃には密林鬱蒼と  
 繁茂し荊蕀蔓つて熊、鹿、狐、狸等自由  
 に出没徘徊し、數戸の土民と二戸の移住  
 民とがあつたに過ぎなかつたと云ふ。  
 其後明治元年に至つて、維新勿々の際  
 國事多端の折であつたが、廟議蝦夷地開  
 拓の事に決し、翌二年開拓使を置かれそ  
 の年十月判官島義勇札幌に入り専ら本府  
 經營の任に當り壯大な計畫を立て、開拓  
 に力めた。當時樹木繁茂し荊蕀徒に蔓り  
 野獸横行せるのみであつたが苦心の末今  
 の北一條西一丁目創成川筋に官廳を立て

た之れ札幌政廳の起原である。越えて翌  
 三年岩村通俊その後を襲ひ開拓本廳を此  
 所に置くことに定め、道路を開き牧舎を  
 建て、明治四年市街地を區劃し現在の基  
 礎を築き南部を商業地、北を官舎街とし  
 て函館地方から商賈二十餘戸を募りし開  
 拓使廳を此地に開いたのが札幌市創設の  
 端緒である。當時の戸數二百餘戸略市街  
 の体裁をなしたのである。越えて五年政廳  
 の築造、道路の修築、河流の改修、製造  
 工場の官營事業頻りに超つた爲市況著し  
 く繁茂に赴き、十三年手宮から鐵道開通  
 するに及んで移住民年と共に増加し、爾  
 來星霜は五十餘年、時に盛衰消長はあつ  
 たが漸次發展して今日の隆盛を見る様  
 になつたのである。

現況

今や本道首腦官衙の殆んど全部を網羅  
 し、各種の工業盛んにして近代施設は  
 概ね備はり全道行政の中心地、學藝の淵  
 藪地、其他百般の事物實に驚異すべき發  
 展を示し、人口十五萬五千(昭和元年十  
 二月末現在)本邦に於ける有數の都市と  
 なつたのである。  
 而して現在市街の配置は概ね大通を中  
 心として北部は官衙學校會社多く近時北  
 海道帝國大學に醫工學部の設置と共に商  
 買の軒數著しく増加して來たが然し當市  
 の商業の中樞と目すべきものは南部で南  
 一條乃至南五條通で銀行及び諸種の商店



旗亭等多く此の間に集り、停車場から南  
方一直線、即ち西四丁目通は俗に停車場  
通と云ひ南部商業の中樞地である。共に  
繁華な通りで、旅館、レストラン等多  
く此界隈にある。

官公衙 現在札幌所在の主なる官公  
衙は、北海道廳、札幌鐵道局、札幌通信  
局、札幌稅務監督局、札幌鑛山監督局、  
帝室林野局札幌支局、札幌控訴院、札幌  
市役所、石狩支廳、地方裁判所並區裁判  
所、稅務署、營林區署、警察署、其他て  
本道主要官衙は殆んど網羅されてゐる。

教育 現在市内の學校としては北海  
道帝國大學(農、醫、工)をはじめ附屬豫科  
土木水産兩專問部、農學及林學實科の高  
等專問の學校の外師範學校一、中學校三  
(公立二、私立一)商業學校一(私立)工業  
學校一(公立)商工學校一(市立)高等女學  
校五(公立一、市立一、私立三)があり又特  
殊教育として裁縫技藝を教へるもの七校  
(私立)其他夜學校、教育所等十數ヶ所あ  
る。

小學校は現在市立十三(一校平均二十  
九學級)外に師範學校附屬小學校一、計  
十四校ある。

以上學生生徒の數一萬四千餘、兒童數  
約二萬二千合計三萬六千餘人の多きに及  
んでゐる。本市を以て學生の町、教育  
の中心地と云ふも却て誇張でもない。  
商工業 本市は北海道中央部の主要

都市として商取引状態極めて盛況である  
米穀日用雜貨は府縣生産地との直接取引  
比較的頻繁で道内にあつては小樽及室蘭  
線、夕張線、根室本線、函館本線等に對  
する取引最も盛である。

次に一般工業状態を見るに元來當市は  
地形上工業地として頗る優勝の地位を占  
め、廣い奥地を有し原料供給に都合よく  
動力の供給亦豊富で且つ製品販賣地とし  
ての小樽を控へて居る傍、開拓使當時に  
於て大部分官營の下に諸種の工業行はれ  
専ら斯業の指導獎勵發達に力められた等  
の歴史的關係を有し漸次工業地として認  
められ其の進展と共に大いに名を成し現  
在に來り將來益々發展せんとしてゐる。  
之れを種類別に見ると酒類、麥酒の醸造  
製粉、製麻、煉乳其他味噌、醬油製造、  
農具、機械の製作等最も盛で其他の工産  
物を合せると一ヶ年總生産額實に三千万  
圓を超え本道有數の工業都市となつたの  
である。

現在資本金十萬圓以上の會社を見るに  
株式會社本店五〇、株式會社支店二五、  
合資會社一〇、合名會社八、職工五名以  
上の工場一八九。

○大日本麥酒株式會社札幌工場 北二  
條東四丁目にあつて工場用地四萬餘坪建  
物煉瓦造八千八百坪で堂々たる大仕掛を  
なしビール釀造高一ヶ年約五萬六千六百  
石、従業員六百名を有し製品は各地方に

發展目覺しいものがあるであらう。まし  
て札幌電車の建設近く實現せんとして  
ゐるに於てをや。

遊覽地 札幌驛を出ると先づ道路の  
廣潤なのに驚く。街路の兩側車道と人道  
とを劃する一線に綠滴るばかりのアカシ  
ヤの並木が續き、煉瓦やコンクリートや  
石造の大建築物が立並んでゐる様は全く  
油繪にある歐米の都市を思ひ出され、氣  
分は全く日本を離れて歐米に遊ぶの感が  
ある。

大通公園 驛から約四丁行くと大通  
に出る。今は公園と化し春から秋にかけ  
て色とりどりの花咲き亂れ其間に逍遙す  
る小徑がつくられてゐる。左、永山將軍  
の銅像毅然として立ち開拓の其昔を偲ば  
しむるものがある。周圍には、北海道拓  
殖銀行、北海タイムス社、札幌郵便局其  
他の大層高樓空高く聳え、右、紅白妍を  
競ふ百花の遙か彼方に黒田清隆の銅像が  
あり、翠巒の藻岩圓山や手稻の連山も眺  
められる景勝の地である。こゝから中島  
公園ゆきの電車に乗ると其終點に  
中島公園 がある。札幌隨一の公園  
で東南近く豊平の清流を控え西に藻岩手  
稻一帶の連山を望み園内には天然の老樹  
茂り櫻や松など多く、築山あり、大池あ  
り、池中に島あり、池には多數の貸舟が  
ある。池の南方には公設野球グラウンド  
の設けがある。夏はホート、ベースて人

を集め冬はスケートで賑ふ市民のよい清  
遊地、娛樂場となつてゐる。池の東岸に  
應立の

拓殖館 がある。本道に於ける各種  
産業の重要産物及製品を陳列し一般觀覽  
に供へてゐる。

圓山公園 中島公園から圓山ゆきの  
切符を買ひ電車で引返し四丁目十字街て  
圓山行の電車に乗り其終點に行く。其附  
近一帶を圓山公園と云ふ。市の西方手稻  
連峯の東麓高燥の地にあつて翠峰を負ひ  
清溪を控へ域内には梅櫻等の花樹多く老  
杉、鬱林天を摩してゐる。此所に北海道  
の總鎮守札幌神社がある。五月の櫻花滿  
開前後は札幌の歡樂境と化し全道より集  
る觀櫻客堵を爲す盛況である。此所から  
電車で引返し西八丁目まで降り徒歩にて道  
廳の裏手

植物園 に行く。昔開拓使時代に、  
札幌農學校教頭米人クラーク博士の提唱  
により設置したもので市の中央に約四萬  
坪の地域を占め札幌地方の處女林は最も  
完全に此處に保存され、その他道の内外  
諸外國の植物約六千種を移植し園内を樹  
木園、樹木分科園、草木園、温室附屬花  
園及苗圃の五區に分つて經營されてゐる  
此處は市内に於て最も幽邃閑雅の地とせ  
られ樹下は一面の芝生で清流は其間を繞  
り土地は波状を描いてゆるやかに高低起  
伏し、俗腸を洗ふに好適地である。

輸出されてゐる。(大正十四年十二月末  
調)

○帝國製麻株式會社札幌製品工場  
北七條東一丁目にあつて工場建坪四千五  
百坪蒸氣及電氣動力で三八五臺の機械を  
運轉し年産額亞麻絲百三十八萬二千廿一  
封度、亞麻織物百三十九萬四千八百三十  
九碼で職工約一千名使用してゐる。(一  
四年一月調)

○日本製粉株式會社札幌工場 北五  
條西七丁目にあつて木造建坪四百八十八  
坪生産高小麥粉、穀麵類四十五萬三千袋  
職工八十名。

○極東煉乳株式會社札幌工場 市内豊  
平町にある。生産高煉乳百九十一萬斤、  
バター二十一萬二千三百斤、内地及海外  
に移輸出せられる。従業員百人。(大正  
十四年十二月末調)

交通 現在市内には縦横に電車通じ  
乗合自働車亦疾驅と交通の便を圖つてゐ  
る。  
鐵道は函館本線此地を通過し市内に札  
幌、桑園、苗穂の三驛がある。此外白石驛  
から定山溪線通じ市内豊平驛を通過し、  
北海道鐵道株式會社經營に係る苗穂、沼  
ノ端(室蘭線)間の札沼鐵道開通し本市は  
愈々交通上重要な地位を占めつゝ状態に  
ある。のみならず第二拓殖計畫による石  
狩川右岸を通ずる札幌、沼田(留萌線)間  
の札沼線昭和九年度に開通の曉は本市の

夏日密林の間、芳草の中を逍遙して鳥  
の唄を聞き、軟草に横はつて池に遊ぶ  
白鳥の群を眺むれば身はまさに俗界を離  
れて仙境に遊ぶの感がある。

また園内には博物館あり。北海道の諸  
礦物、農産物、水産物、動物の標本製  
物を陳列し又アイヌ族に關する種々の事  
物、手工品等を豊富に陳列してある。

北海道帝國大學 植物園を去つて大  
學に行く北すること敷丁。大學の地域は  
極めて廣潤で、老樹枝を交へて茂り、綠  
芝地に敷いて青毛鹿の如く幾十の教室講  
堂その他の屋舎は樹間に散見清冽なる細  
流はその間を曲流し、靜寂幽雅、別天地  
である。此所て學理の蘊奥を極める學生  
生徒は如何ばかり幸福なことであらう。

○今井吳服店 其他由緒古き豊平館  
本道土木の誇とする豊平橋、東京の淺  
草、大阪千日前とも云ふべき一夜の狸小  
路一藻岩山原生保安林等叙すべき名所澤  
山あるが殊に近代ルネッサンス式五層建  
のアパートメントストアたる(株)商店は  
北日本隨一の商店として又札幌の一名物  
として其名全道に響き亘つてゐる。  
北海道農事試験場 札幌から北約二  
十町北八條西十一丁目にあつて地積十  
七町六反歩、主として左記の事柄を掌り  
本道農事の改良發達に貢獻する所大であ  
る。種藝及園藝、農藝化學、蠶業、病理  
昆虫、土性等に關する試験調査、品種改



良、種育苗成配付、實習生及講習生の養成、講習及講話、試験成績報告、依頼分析鑑定及消毒、野鼠チブス菌培養等。

空知支廳管内

管内概況 當管内は石狩國の中部にあつて南西の二方は石狩、膽振、留萌の三支廳管内に界し東及北は上川支廳管内に接してゐる。

割四分強を占め支廳中第一位にある。更に産業の状態を見るに、前述の如く有名なる石狩炭田並石狩平野の大半を擁し地味膏腴にして農耕適地約二十二万町歩を有し、現在農耕地田三万三千三百八十町歩、畑八万五千九百九十町歩あり且今や各地に大規模な灌漑造田の工事勃發し又企畫中のものも尠くない之が完成の曉には六万町歩の美田を抱擁する様になり又牧畜に於ても農業組織の改善と相俟つて近年進展の趨勢にある。更に炭界に於ても近年産額の増加の傾向を示してゐるから今後當管内の産業は大いに嚆望すべきものがある。今左に大正十四年に於ける生産状態を示さう。

Table with 2 columns: 農産物 (Agricultural Products) and 生産額 (Production Amount). Items include 米 (Rice), 麦 (Wheat), 大豆 (Soybeans), etc.

大正十三年の總生産額を見るに全道の一割五分支廳中第一位で、内地府縣中鳥取及宮崎の二縣の生産額と略伯中の間にあるのである。

今左に主なる土功組合を掲げよう。北海土功組合(灌漑反別一〇、〇五六町歩既成反別無)深川土功組合(灌漑反別五、〇〇〇町、成水反別四、三五五町)空知土功組合(灌漑反別四、一〇〇町成水反別二、九四〇町)其他十二ある。

幌向原野 江別から岩見澤に向ふ途中車中から左右に廣莫たる幌向原野を見る。之れ國費を以て泥炭濕地改良工事を施された土地で改良反別一、八九八町工費六万圓餘大正八年度に完成され、區域内に地方有地多く目下主として畜農經營をさせる目的で大正十四年以來多數の移住者を入地させてゐる。こゝを過ぎ

岩見澤 に達する。室蘭線幌内線の分岐點で交通上重要な位置を占めてゐる上に東は近く石狩炭田たる丘陵に接してゐるが北、西、南の三方は廣々とした石狩の大平野に連り附近地味肥え農産豊かに豆類麥類玉葱等の物資の集散盛んなる上に近時土地改良によつて米作益々多きを加へ産業都市として發達の機運に向つてゐる。人口二万五千、空知支廳は此地にある。

夕張炭山 (夕張、新夕張、若鍋、眞谷、登川、楓) 岩見澤から室蘭線に乗る途

中栗山驛から分岐の夕張鐵道によること十八哩八分、夕張驛に着く。市街地人口約二万(夕張全体は約五万人)當礦は本邦石炭業界一方の重鎮北海道炭礦汽船株式會社の經營に係り石炭の良質と豊富とを以て世に知られてゐる。石炭探掘能力一日五千噸、従業人員約一万に近い。

由緒ある新十津川 砂川及瀧川から石狩川を狭めて西方に新十津川村がある郷里奈良縣吉野郡十津川村の分身にして往時より皇室に對し奉り由緒深く殊に明治維新前の朝廷内外御多事の時に當り特別に恩命を拜し宮廷の御用向等仰せ付けあり。郷士擧つて忠勤を相勵んだこと枚擧

に違がない就中明治大帝御治世中王政復古の直後第一親兵として親しく宮闈御守衛の任を帯び朝夕陛下に扈從せる等特別の由緒を蔵する爲會て孝明天皇明治天皇昭憲皇太后御大喪の御砌或は先帝の御即位等の大儀式には其都度十名内外拜式參列の光榮に浴したるものである。然るに今回恐れ多くも諒闇に際したるを以て古例に依り御大喪の參列の儀を宮内省へ請願したるところ四日附を以て本村より十名舊郷より三名參列の件許可になり十名上京し御大葬參列の光榮に浴したのである。明治二十一年郷里に於て未曾有の大洪水に遭つた爲め二十二年異例なる政府保護の下に六百戸團體を組織此地に移住したのである。現在模範村と云はれ人口一万四千を有し大正十四年空知管内米産額中第一位を占め(五七、一四四石を産し)其他豆、麥、麻等も多く産し製麻、製材、澱粉の工業も起るに至つた。瀧川驛から役場迄自動車あり。約二十

能性に富む將來有望な土地である。現在町制布かれ警察署、稅務署、中學校等があり人口一万三千(市街地七千四百)を有してゐる。瀧川種羊場 瀧川の次驛根室本線幌倉驛から約十町の所にある。尙詳細は畜産業の欄參照。空知土功組合 空知郡(砂川外五ヶ町村に渉る)に在つて大正十一年六月の設置に係り區域面積一万五千六百町歩。在つて明治四十二年の設置に係り區域面積五千町歩で良米の産地である。深川町 留萌線の分岐點で石狩平野の東北端雨龍平野の中心地附近農村は地味肥え農産豊かて此地は其集散地である。人口八千八百(市街地人口六千七百)深川警察署がある。蜂須賀農場 瀧川の次驛江部乙から西一里半雨龍村に在る蜂須賀侯爵家の經營地積五万三千五百六十七町歩内水田一万八千七百九町歩、畑九千七百八十五町歩其の他山林及原野宅地等である。一ヶ年の總農産額百三十三万三千圓に達し現在小作七百八十六戸。

留萌支廳管内

管内概況 當管内は本道の西北部に在り日本海に面した傾斜地で面積二百九十三方里之を内地に比較するに京都府よ



り稍狭く之より狭い府縣尙十五ある。本道中浦河支廳と匹敵し其海岸線五十四里餘平砂遠く連り海上七哩に天寶燒尻の二島がある。南東は石狩空知兩支廳に北は宗谷支廳と相接し北東は上川支廳管内中川郡に界してゐる。國境は山嶽起伏し海抜五千尺の暑寒別嶽最も高く聳えて南西を擁してゐる天鹽平原を除く外大きな原野なく河川は天鹽川を宗とし概ね源を國境に發して海に入り其緩かに流れる所耕牧に適し山は鑛物良材に富み海には魚海藻豊である。故に夙に水産地として知られ其の歴史も相當古きものがあるのてあるが交通が不便であつた爲めに拓殖の進展遅々として振はざるの觀があつた。然し乍ら鐵道は明治三十五年深川留萌間大正九年に留萌増毛間の竣功するありて物資の輸送に至大の利便を得又近く天鹽線の全通を見んとし更に留萌羽幌間の沿岸あり。將來は更に羽幌より沿岸町村を経て天鹽線に接続する沿岸線及羽幌寄間の鐵道の實現を見るに至らば管内の交通の便は至大なるものあるに至るであらう更に留萌の築港は意外の難工事の爲に竣功遅延したりと雖も之が完成の時雨龍並に小平藁其の他附近泥炭坑の開發と相俟つて商港としての留萌の殷賑は蓋し期して待つべきものがある。其の他道路の開整橋梁の架設等交通の利便は日と共に

理想を實現し行くを以て管内の開發又級數的進展を見るべきである。管内の現在の戸數は一万三千八百餘人口七万三千三百を有し生産總額約二千万圓を擧げ水産農畜産物等極めて有望なるものがある。之等生産額の大宗として總生産額の六割餘の八百萬圓の生産額を有する漁業は、遠く四百年の昔に始り魚族豊富にして産額又多く本道有数の漁場として名のあつたものであるが殊に近來は鯉鮭鱒昆布等の沿岸漁業に止らずして沖合漁業發達しつゝある。即ち管内の沿海は寒暖兩流の交錯し暖流に屬する鮪鰯柔魚鯖の魚族より鱒鱈等の寒流に屬する魚族の來游頗る豊饒で最近に於ては流網に底曳網其の他延繩漁業等にも機船を使用するもの續出し良好の成績を収め更に目下各地に於て機船建造の計畫があるから此沿岸漁業より沖合漁業と漸次進展を見んとしつゝあるのである。農産物は小豆米燕麥大豆菜豆馬鈴薯蔬菜等を始めとし最近の收穫高は四百九十万圓に達するが、現在の耕地は水田三千町歩畑二万一千町歩であつて、耕地の開發は未だ其の半にも達して居ないといふべく即ち將來は六万四千町歩の耕地を得其の内一万五千町歩は水田となし得るのであるが故に將來の農業は管内産業の最も重要なものとなるべく之が經營方法をして合理的に漸時集約的に進むことを期し愈々其の發達を圖つて

ゐる。畜産は現在馬匹六千三百頭畜牛六百頭を飼育しつゝあるが農業經營の改善に伴ひ所謂混同農業の實現は家畜の増飼を必要とする所々其の發展は期して待つべきものがある。其他養豚養兔養鶏養蜂等も種類系統の改良飼育法及生産品販賣方法の改善に依り發達の機運に向ひつゝあり。又綿羊は大正十二年始めて飼養を見たもので未だ必ずしも盛なりと言ふことは出来ないが、將來相當望を囑して可なりと信するものである。養蠶は小平藁村の如きは本道屈指の養蠶地として知られて居り其他の町村に於ても猶大いに發達の餘裕を示して居る。林業にありては國境に近い一帯は千古斧鉞の入りざる密林を有し角材丸太材電柱材鐵道枕木薪炭材等年々二百萬圓内外を産出し製材産額も二十五萬圓内外ある。鑛業に至つては現在其事業甚だ振はぬ狀況にあるが、石炭は其の含炭面積一億四千三百八十坪埋藏炭量三億六千万噸を有して居るが故に、留萌築港完成と相俟つて其の活況を呈するは敢て遠きことを待たない。工業も盛なりと言ふことは出来ないが清工業原料豐富なるに拘らず今日振はないのは交通の不便に依る所が大なるを認めらるる所であつて交通設備の完成と共に發達すべきは瞭らかである。

留萌港 留萌町は前面渺茫たる日本海

に臨み背後には天鹽及石狩の大富源を擁し陸には地味肥沃な大富源と殊に本道稀蔵の大炭田とを包蔵し又一方海には無盡蔵の魚族に富眞に天與の地利を占め所謂必然の大都市として將來一大進展すべき素質と運命とを有し、今や戸數二千六百人口一万四千を算へ主要生産たる水産に農産林産工礦産等の總生産額實に三百萬圓の巨額に達し而も洋々たる前途を有する都市として其發展の程度は運々として遺憾の觀があるがされど港灣の利用を以て全生命とする同町は、其修築完成の道程にある今日長足の進展を期し難きは已むを得ざるも若し留萌港灣修築完成の曉には其港勢の及ぼすところ天鹽石狩北見十勝數ヶ國に亘り、更に鐵道石北線開通に伴ひ釧路及根室の幾部をも其勢力圈内たらしむることを得べく隨つて町勢は激變的に驚くべき膨脹發展を齎らすに至るべきは逆睹するに難からざるものである故に政府當局も茲に見る處があつてか如上天與の富源開拓の急務を認め曩に深川増毛間の鐵道敷設乃至留萌港灣修築等を畫策せられて、既に増毛線は開通し築港も亦遠からず完成せんとしてゐる。更に天鹽沿岸鐵道羽幌線も大正十二年より着手せられ町勢は益々進歩發展を爲さんとするの機運を迎へつゝあるものである。同町は即ち之が對策として如上政府の計畫を助成し一面町勢の進展に資せん

が爲めに二百五十萬圓の町債を起し都市計畫を確立して留萌川切替市街區劃の整理擴張、被覆面積二萬餘坪の副港築設其他に類例なき雄大な町事業を計劃し目下實施中であるが、尙上水道の急務を認め既に該工事並に起債に要する當局の認可を得着々施工しつゝあるなど所謂之等の事業完成と共に築港の竣工と相俟つて町勢に一大新面を劃し近く大都市の實現を見るに至るべきは蓋し期して俟つべきものである。現在同町は支廳及留萌中學校の所在地である。

旭川市

旭川市は札幌驛から八六哩二分普通列車四時半で達することの出来る本道中央部にある都會である。西と南は神居古潭美瑛の丘陵高地、北と東は石狩天鹽國境

の連山に圍繞されたる高地性盆地、石狩川やその支流の流域廣大なる一帯の沃野をめぐらしてゐて暴風の虞なく各河川の水源は千古斧鉞の入りぬ大森林で、水の心配もなく、地質は概ね沖積層土で最も農耕に適してゐる。海岸を離れると遠く氣候は大陸的で、冬は寒威きびしいが夏は高温の日が続く。斯くの如く天恵ゆたかな地方に農業殊に米作の勃興を見るに至つたことは極めて自然の勢ひである。今や上川平野における米は内外に聲價を高め本道の代表米であるが、將來益々發展すべき趨勢にある。米質にあつては他府縣産のものに比して何等遜色なく「上川米」として有数のものに取扱はれてゐる。その他麥類豆類等の農産、畜産、林産、工産も相當の發達を見せてゐる。旭川市はこの天産に富む樂土、上川平野の中央にあり。忠別、牛別、牛朱別等の諸河川が大石狩の本流の合する所に位置し、廣袤一方里、海拔三百七十七尺の高地、地勢平坦、市區井然としてゐる。

維新以前の旭川地方は別に名稱もなく唯舊土人の一部落に過ぎなかつた。今を去る百有餘年前文化年間有名な探險家間宮林藏初めて此地を跋渉したが恐らく和人にして此地に足跡を印した始めてあつたらう。維新前後蝦夷探險の功勞者松



浦武四郎が上川地方を具さに踏査しこの地方に上川郡と命名した土人語の「ベニワンダルコタン」川上の人の部落と云ふ意義である。其後明治二年以來開拓使廳から測量隊を派し爾後數回の實測に依つて略其地勢と地質とを究められて實情が世上に紹介せられたのである。明治十八年には時の司法大輔岩村通俊屯田兵本部長永山武四郎等の視察により此地方富源開發の大方針定められ、翌十九年第一次長官として岩村通俊赴任するに及んで上川開發の念禁じ難く空知郡市來知より忠別太(旭川市の入口神居村に在り)に至る假道を通じ、二十一年岩村長官に代つて永山武四郎屯田本部長と長官とを兼ね、北都建設の意見を樹て、内閣に具申し二十二年時の内閣總理大臣山縣有朋から北海道石狩國上川郡の内に於て他日一都府を建て離宮を設けらるゝに付夫々計畫施設すべしとの宣達があつて翌年調査委員を擧げて精査の結果今の神樂村旭岡(神樂岡とも云ひ其の地域は現在上川神社境内となつてゐる)を以て離宮豫定地とした。此事一度世上に傳るに及んで府縣人は勿論本道在住者の心を動かして尋て市街地の貸下各原野の解放等行はれて漸く在住者が増加したのである。爾來星霜を閱すること四十年、其間官民一致の努力によつて今日の盛大を來したのである

鐵道の要衝に立つ旭川 交通機關の整備は商工業の發展上最も喫緊な事項である。當市は幸本道の中央に位し交通上極めて要衝の地に當り鐵道は四通八達し道路橋梁亦完備して交通の便頗る大である。本邦縱貫鐵道幹線たる函館本線は本市にて宗谷線に連絡し長く北に延び本道の最北端稚内港に達し樺太に連絡し、途中分岐して北見の寶庫を貫き中湧別に至り更に野付牛網走に連絡してゐる。南方富良野線は下富良野野根室本線と合し帶廣池田を経て釧路根室に達してゐる。更に東方本道最中央部を横斷すべき石北線は新旭川から分岐して上川驛まで通じてゐる。叙上の如く本市は本道中部交通の要衝に在り旭川驛に於ける列車の發着は旅客及混合列車四十七回其他貨車二十一回合計六十八回の多きを算へ交通頗る頻繁を加へてゐる。市内の交通機關としては乗合馬車人力車最も多く百數十臺あり其他自動車數十臺あつて坦々たる街路を疾驅してゐるが當地は冬季積雪多き爲め電車の設備困難であるが容易に其實現を見ることが出来るのは甚だ遺憾である。貨物集散地としての旭川 叙上の如く鐵道は本市を中心として各方面に發達せるが故に其商圏範圍は北は遠く宗谷稚内に東は根室網走方面一帯に及び本道東

北部の六箇國に亘る大地域を占め更に海を距つて樺太島とは最近開始の稚泊連絡を離れ依り其取引日を逐ふて激増の重有様である。而して本道東北部一帯の重要物産たる林産農産物の如きは汎く日本全國に手を伸し商業頗る活潑である。殊に前記の如く本道隨一の米産地と稱せらるゝ上川平原の中心に位してゐるので其産額六十四万一千六百八十一石即ち二千二百九万八千二百五十八圓(大正十三年)の米は殆んど全部本市に集注せられ尙且騰振河西根室網走各支廳管内からも多量の移入を見、是等集注せられし米は本市精米工場に於て搗精の上更に各地方に輸送せらるゝ状態である。就中樺太行米は漸増を示してゐる。工業 本市産業の代表的なものである。大正十五年五月調によれば本市一ヶ年の總生産價格一、二、〇、九、三、二、七、二圓にして其大部分を占めてゐる。此工業の内清酒、燒酎、醬油、味噌等の醸造業最も盛である。清酒は同年産額四、〇、八、二、五〇〇圓にして總生産價格の約三分に當り工産額の三割六分強を占め、全道第一位で年々増加の趨勢にある。品質頗る優れて需要者の評判よく旭川市は北海の灘と稱されてゐる。重なる官公衙 第七師團司令部、地方裁判所、上川支廳、稅務署、營林區署

警察署、旭川土木事務所、札幌刑務所旭川支所、運輸事務所、保健事務所、鐵道省北海道建設事務所、師範學校、中學校高等女學校、市役所等がある。合同酒精株式會社 旭川市三條通九丁目にある資本百一十萬圓で主として燒酎、酒精、ウオッカ、ウイスキー、ブランドー、旭味淋等を製造する生産年額三萬石、職工、勞働者百五十七人(十四年十月中旬調) 第七師團 旭川驛から約一里市の郊外にある。

近文舊土人部落 旭川驛から西約一里近文驛から僅に九町の所にある。元此の地はアイヌの都府として土人の居住者多かつたが今は戸數六十餘戸人口二百八十五人(男百三十人女百五十五人)現に市の保護の下に農業及狩獵等に依つて平穩な生活をしてゐる。此所て舊土人の生活状態を審にし教育衛生農事の概況を兼ね往昔の家屋の模造寶物其他手藝品等を實見することが出来る。

上川支廳管内

管内概況 當管内は石狩天鹽膽振の三ヶ國五郡三十ヶ村に亘り其位置本道の中央に位し南北八十五里東西二十四里、六百四十方里の面積を有し、石狩川の水は茲に發して美田を作らせ水運を便利にし地勢大抵平坦で地味肥え所謂上川米

の盛名をなさしめたのである。現在水田四万六千町歩を有つてゐるが昭和六年には約一万五千町歩の造田計畫の見込もあつて將來二百萬石の産額を得ることは遠くないであらう。猶特有農産物としては澱粉甜菜除虫菊薄荷等があつて其産額極めて多い。今左に大正十三年の生産状況を掲げよう。

Table with 2 columns: 農産物 (Agricultural Products) and 生産額 (Production Amount). Items include 米 (Rice), 馬鈴薯 (Potatoes), 燕麥 (Oats), 大豆 (Soybeans), 小豆 (Adzuki beans), 神居古潭 (Kamigotani), 北へ進むと北海の耶馬溪 (North to the Sea of Japan, Yama-kei), 河は兩岸に相對峙する (River banks facing each other), 汽車は右岸を通る (Trains pass on the right bank), 此勝景を去れば上川平原 (This scenery is gone, Upper Kushiro Plain), 鷹栖村土功組合 (Egashira Village Earthworks Association).

り大正十年七月の設置で區域面積四千四百町歩。松平農場 旭川驛から北西三里松平侯爵家の經營に係り地積千三百五十餘町歩鷹栖村字近文にある。農場一帶豊饒な水田地となつて良質の米を産出すること多く本道有數の大農場である。劍淵原野及和寒原野 劍淵驛から一里と劍淵原野に着き、和寒驛から十町と和寒原野に行くことが出来る。富良野大學演習林 旭川から富良野線に乗り下富良野に至り根室本線に會す其次驛山部から一丁で演習林の事務所がある。針葉樹二五、〇九四町歩。士別町 旭川驛から北三三哩四約一時間半で此地に着く。士別原野の中心で屯田兵村として發達した澱粉麻布等の産が多い。東方上士別は麥小豆馬鈴薯の産を以て名高い。今は町制布かれ人口一万三千。名寄町 ナヨロと讀む。土人語のナイ、オロから轉ずナイは河、オロは傍て川の傍と云ふ意味即ち天鹽川の上流名寄川の落合ふ所にあるから此名がついた。明治三十三年士別から假定縣道が通ぜられて始めて内地人の來住を見、ついで三十六年旭川から鐵道開通してからは益々發展を遂げ今や各種の産業勃興し、町勢進展の状況に驚異すべきものがある。人口約一万四千、東へ名寄本線を分岐し



交通上重要な位置を占めてゐる。名寄を發して北上すると右に北見山脈左に天鹽山脈、蔚蒼たる樹木に包まれて車窓にせまり天鹽川の清流此間を北に向つて悠々と流れてゆく。沿線は森林と木工場の連続といつてもよい程である。天鹽川が緑の山間を銀蛇のやうに流るゝあたりこれに沿ふて狭長の平野伸びそこに亞麻馬鈴薯などが美しい花を見せ僅に旅情を慰むるやうである。美深附近には多量の澱粉が産出され一時好況時代には所謂澱粉成金が出来たと云はれてゐる。名寄驛附近には山形團体を始めとして熊本、岐阜、越中、新潟等の団体農場がある。

宗谷支廳管内

管内概況 當管内は本道の最北端に當つて四郡に亘り人口七一、三七八八二ヶ町村を管轄してゐる。南北三十二里東西十六里で其面積二百五十方里餘で鬱蒼とした森林豊富な上に礦物を藏し加ふるに農牧適地に富み殊に各河川の流域平

坦で沃野遠く連つてゐる。利尻郡は本土の西北海上十海里を隔てゝゐる火山系の孤島で面積十二方里中央に海拔五千六百八十餘尺の利尻山峙立し山頂には四時雪が絶えない。恰も白扇懸倒の様に雄然と雲表に聳え風景明媚利尻富士と云ひ本道三景の一と稱へられてゐる。禮文島は利尻島の北方六海里の所に在り全島南北に長く面積五方里餘兩島共に魚介海藻に富み産額多く眞に北海の寶庫たる稱に背かない。就中兩島生産の昆布は利尻昆布と云ひ其名甚だ高い。更に生産状況を見るに生産年額は二十五萬圓乃至三十萬圓の間にあつて内水産業は管内殖殖の先驅で、沿岸一帯寒暖兩潮流の調和は魚族の洄游、海藻の繁茂に適し殊に利尻禮文の兩島並に一オコツク一海に面する枝幸郡の一帯は世界三大漁場の一と稱せられ年次の産額又甚だ多い。近時時代の進運と共に新に海田の開墾新規漁業の勃興水産製造品の開始等著しき進歩を見て大正十四年の生産額は實に一千四百萬圓に達し沿岸一里の生産十六萬二千圓に達してゐる。若し全管内住民の要望してゐる禮文島に於ける香深、船泊利尻島に於ける仙法志、鬼脇、鴛泊元泊、陸地方面に於ける拔海、頓別、濱頓別、枝幸の各所漁港船入潤の着手完成を見るに至つたならば、無盡の寶庫は開發され其産額莫大な額に上り本道殖殖進展

に貢献すること甚大なものあるであらう陸上開發としては農業牧畜林業鑛業等交通機關の完備と相俟つて年々著しい進歩を見事に從來放任の傾のあつた水稲の様なのも大正十四年の成績によると反當平均一石七斗の收穫を見た譯で將來甚だ有望で年々造田反別の増加を見てゐる。要之當管内の陸上の開發は從來交通不便であつたのと漁業を以て其起源とした事によつて運々として振はなかつたが今や時運の進展と共に陸上開發の急務を感じ當局に於て夫々畫策中であるから將來刮目して其成果を見るべきである。

支幸町

支幸町 天北の國境を越えた汽車は小頓別驛に著く。此所より東方約九里オホツク海に面する一漁港に枝幸がある。此港は元一小漁港に過ぎなかつたが明治十八九年頃から移民が入地し二十四年頃にはすでに相當な市街となり其後附近に砂金が多量採取されることになつて廣く其名が宣傳せらるゝやうになつた。近海からは鯨鮭鱒タラバカニ海扇等の漁獲多く、此方面の有力な地である。人口九千。小頓別から汽車に乗れば森林は次から次へと續く。途中

淺茅野

淺茅野 に着く。無盡の木材と石炭とを有し將來を囑目されてゐる土地、猿拂原野は附近一帯の泥炭地で農耕地としては適當ではないがオホツク海からの

漁獲によつて相當の賑ひを見せてゐる。此泥炭地帯を過ぎ汽車は再び太古そのまゝのやうな大森林地を西へと進み樺岡附近迄は森林と鑛山が無限に藏されこの開發をひたすら待つてゐるやうであり、當局殖殖の眼もこゝへと注がれてゐる。一日五六十石の原油を産する村井石油礦と秋田木材の發電所とを以て名のある聲間に着く。

村井石油礦

北見國宗谷郡宗谷村字増幌に在る宗谷本線幕別驛(聲問驛の南次驛)を距る東南約一里、其間私設道路があつて車馬が通つてゐる。鑛區面積百九十八萬九千坪大正十一年事業に着手し現在採油九、掘鑿中三、大正十三年度産油量五千四百三十石で職工労働者四十五名である。(大正十四年九月末日調)

幕別、聲問を過ぎると本道の最北端、宗谷線の終點たる北方の古都、樺太へ連絡港たる

稚内港

に着く。旭川驛から鐵路百七十三哩五分、急行(旭川から名寄迄急行、後普通)約九時間て達することが出来る。

明治九年頃この地に漁場を開かれたのが端をなして今日の隆昌を見るに至つたのであるが、鐵道開通と共にこゝからカラフト大泊港までは鐵道省の連絡航路設けられ、海陸交通の要衝に當り今後の發展は目ざましいものと見られてゐる。

稚内の町は宗谷岬とノシヤツア岬とをもちつて抱擁せられた宗谷灣の西南隅、ノシヤツア岬の連丘に押狭められた狭長低平な海濱に位し、即ち背後に急峻なる一帯の丘陵を負、前は宗谷灣の波光をへだて、宗谷岬と相對し右方近く聲問の村落と氣息相通じ、北方はるかに煙波漂渺たる間にカラフトの山影をのぞむ勝景の地である。緯度の關係からいへば東海岸の根室などより寒帯の地のやうに思はれるが、對馬暖流の關係を受けて比較的氣候は温暖の方である。冬になつても海水結氷するといふ程でなく、夏も海霧の襲來なく、築港は大正九年度から着手し昭和二年竣功の豫定となつて居り十四年度迄は防波堤千八百八十七尺を築設し目下引續き工事中に屬してゐる。若し之が完成の曉は北方唯一の良商港として目覺しい發展をすることであらう。人口一万八千現在宗谷支廳、稚内中學校、稚内警察署等がある。

利尻罐詰株式會社工場

稚内町字チラセナイに分工場がある。資本金二十五萬圓最近蟹罐詰生産高、利尻、鬼脇、石崎、一万一千四百三十圓、(一箱四十五圓)刀根罐詰工場 工場は稚内町、尻白枝幸の三ヶ所にある。蟹罐詰生産高五千五百七十八圓に達してゐる。(十四年十月調) 稚泊連絡 稚内大泊間は宗谷海峽を

網走支廳管内

上川支廳管内宗谷本線の一驛名寄から東へ分岐してゐる名寄線に據れば天北の國境を越える所、網走支廳管内の土を踏む。

管内概況

當支廳は北見國の中、斜里、網走、常呂、紋別の四郡二十四箇町村を管轄し、地勢東西に長く南北に短い中央部は廣く兩端狭く丁度弦月の形に似てゐる。南は千島帯火山脈の分水嶺で根室、釧路、十勝の三國に接し西は東北山脈を限界として石狩、天鹽兩國に隣し東北方は凹凸少い弦狀に彎曲してゐる。



る。延長七十三里の海岸線にオホーツク海に面し、面積七百二万有し全道面積の二割二分強に當り東京、大阪、香川、佐賀、神奈川の二府三縣を合せたよりも尙十五万里廣い。

後背山脈は一大屏風形をして管内を抱擁し前面は對馬暖流海岸を洗ひ、河川は國境方面に水源を發し各河川殆ど併行して北東に向つて流れオホーツク海に注いでゐる。湖沼の最も大きなのはサロマ湖で周囲二十三里七町面積一万二千二百四十三町歩に及び琵琶湖に次ぐ本邦第二の大湖である。其他網走湖能取湖がある。

各河川の流域には廣大な平野を成し地味肥沃で農牧に適する。山林地帯は千古斧鉞の入らない森林が鬱蒼として茂り年々多額の林産物を出しオホーツク海一帯は世界三大漁場の一として魚族の豊富なを以て世に知られてゐる。

管内は潮流の關係上氣候温暖で例年四月中旬に積雪は解け温度急上昇するが普通従つて植物の生育良好で米麥其他食用農産物を始め工業用農産物等熟しないものはない且牧場の適地も多く而も朝夕清涼で人心を爽快にし風土大層健康に適してゐるから未だ曾て甚しい悪疫が流行したことがない。

當管内の開発は今から二百三十餘年前貞享年間松前藩、北見國宗谷に宗谷場所を設け北見國全部を總轄したことに始まりてゐる。

北海道廳では大正八年常呂郡留邊蘂町及置戸村に官行斫伐事業を開始し留邊蘂町から斫伐現場まで輕便鐵道を敷設し一は留邊蘂驛に他は置戸村に搬出して公賣してゐる。

此様に年々伐採額多い爲め豊富な森林も漸次減少する様になり大正十四年中の民有地伐採面積八千五百九十一町五反歩に及んだ。故に永久的林業計畫を樹立することの急務であることを認め山地は勿論荒廢地に對して極力植樹造林を奨励してゐる。大正十四年の民有地造林面積九百八十八町四反に及んだが尙極力之が勸奨に努めてゐる有様である。

留邊蘂 名寄驛を出た汽車は山岳重疊し翠綠滴る北見山脈を横斷して東へ進んで行く沿線の部落は明治三十五年頃から開けたのであるが交通甚だ不便な爲め發展は殆んど望まれてゐなかつたが、肥沃な土地と豊富な森林とを持つて居る爲め一度鐵道開通するや目覺しい勢力をもつて發展をついけ來住者も年々多きを加へてゐる。興部からオホーツク海の怒濤に沿ひ、三時間半かゝつて渚滑線の分岐點たる渚滑につく。此村は人口約八千、渚滑線と渚滑川とを利用して盛んに木材を集散する。

瀧の上公園 渚滑驛から二十一哩で渚滑線の終點瀧の上市街に着く。公園は渚滑川及サツクル川の合流點にある市街

馬鈴薯	一、〇三二、九七五
工 産	九、八〇五、〇五二
薄 産	五、九五〇、〇四五
木 産	一、〇一七、五〇二
水 産	四、〇〇七、七八九
鮭 産	六、九三、八七八
鱈 産	六、二一、五五四
鮪 産	六、一五、六九四
林 産	四、〇六八、三一八
民有林伐採高ノ内	(民有林)
木 材	三、三三九、一一三
木 材	六、五八、七五九
炭	六、五八、七五九

當管内の森林は樹質極めてよく樹種も亦多く到處美林鬱蒼として年々巨額の用材を産し全道第一の木材供給地として謳はれ年産額四百萬圓内外を下らない。大正十四年中の産額は民有林ばかりで四百六十八萬圓餘に達し管内總生産額の一〇・一%を占め全道大正十三年生産額の一七・二%に當る。之に地方林、國有林の伐採額を加へると六百八十八萬圓の巨額に上るのである。現今戸口の増加、交通運輸機關の發達に伴つて用材として阪神市場に移出せるもの亦遠く支那方面へ輸出せられるものもある。道内の需要も逐年増加し多種の用材中、角材、丸太材、薪炭材、鐵道枕木、製紙原料材等最も多く燐寸軸木原料材、ベニヤ材、鉛筆用材等に次ぐ。

に接し國中清溪の奔流、落ちて瀑布となり又三方翠巒を負つて美しく頗る風趣に富んでゐる。

紋別港 松前藩時代から漁場として開けた所であるが鐵道開通以來益々發展し近海に鯨、帆立貝の漁獲が多い事度高く、大正十二年築港に着手し昭和二年度で完成する豫定になつてゐる其工費豫算百九十九萬三千餘圓。其完成の曉は彌々榮えることであらう。現在町制施行され人口約九千に達してゐる。

鴻舞金山 紋別驛の南の次驛元紋別驛の南六里半にあつて住友合資會社の經營に屬し金額金山として本道第一で年産額七十六萬圓を産し將來有望であると云はれてゐる。

鐵道は名寄本線の終點たる中湧別で湧別線に接続し家庭學校で有名な遠輕に達し、遠輕に著く。驛は生田原川が湧別川に注ぐ所に在る。驛附近は平坦な平原で地味良く、薄荷、亞麻等の産が甚だ多く又附近森林に富むから製材等盛んで大小五十六の工場を有し原木消費高全道一で第一、經木、下駄、曲輪樽の製造盛んである第二期拓殖計畫により、此地から上川支廳管内の留邊蘂迄の鐵道は昭和七年度に完成することになつたのであるが其完成の曉は交通上の要路として如何に目覺しい發展をすることであらう。現在人口一万二千。

馬鈴薯	一、〇三二、九七五
工 産	九、八〇五、〇五二
薄 産	五、九五〇、〇四五
木 産	一、〇一七、五〇二
水 産	四、〇〇七、七八九
鮭 産	六、九三、八七八
鱈 産	六、二一、五五四
鮪 産	六、一五、六九四
林 産	四、〇六八、三一八
民有林伐採高ノ内	(民有林)
木 材	三、三三九、一一三
木 材	六、五八、七五九
炭	六、五八、七五九

家庭學校農場 家庭學校は不良青少年の教養感化及慈善事業に従事すべき教師職員の名士に依つて明治三十二年に創立せられ、其の後財團法人組織となつたもので、本校は東京市西巢鴨に在る。而して不良な青少年を感化教養するには、雄大な新天地に農場を開拓し、適當なる勞務にも従事せしむることが必要であるとして、大正三年に至り遠輕驛の西北一里に第一農場約七百八十町歩及白瀧原野に第二農場の貸付を受け、多數の青少年を收容して教養につとむる外、數百戸の小作も入れて農地の開拓を圖り、この収益は學校の維持費に當てゐるが事業頗る良成績を擧げてゐる。

留邊蘂 遠輕から一時間四十六分で此地に着く、附近に豊富な大森林を控へてゐるので留邊蘂の木材が、木材の留邊蘂かと云ふ位木材等が甚だ盛んで、木材、下駄棒、經木、木炭の産が多く現在町制施行され人口約一万に達してゐる。

温根湯温泉 留邊蘂驛から西南約二里で温根湯の市街がある。市街の一端を貫流してゐる清き流、武華川を挾んで温泉旅館の設備がある。鹽類泉硫黄泉の二種があつて胃腸、リウマチス、皮膚病其他に特效ありと云ふ。潺溪の音を聴き静かに温泉に浸れば身は別天地にある感湧き病痼は自ら治療し旅客は其勞を慰むる



に足るものがある。温根湯國有林及官行斫伐 留邊藥驛から森林鐵道十九哩の終點附近一帶の樹林は國有林で其の面積三四、九七三町歩...

ある道廳管内伐の本區域の面積は三万四千六百八十餘町歩で蓄積針葉樹二九、七四九千石...

釧路國支廳管内

管内概況 當管内は北海道本島の東部の地域を占め、釧路國六郡十三ヶ町村を管轄し西は直別川から北走して...

かになつた。美幌を發した汽車は網走川に沿ふて傾斜な北見平原を網走へ向ふ。途中網走湖畔を進み、湖の網走川へ落ちる所の...

くの支流を合せ沿岸平原を潤し釧路港に注ぐ。延長三十四里、雄阿寒岳の西麓に在り阿寒川の源をなせる阿寒湖は火山湖...

此管内の開發は寛永年間開始し明治元年七郡に分轄され佐賀藩、廣島藩及福山藩に支配された。越えて明治十四年厚...

長切昆布 六〇九、九四三 林産 五、二五八、三二八 角材 一、三〇八、二六三 普通丸太 一、〇八一、七五五 製紙原料 九八八、四二〇...



式會社に合併繼承せられ同九年六月工事完成、同年七月から碎木紙料の製造開始...

尾幌原生林 尾幌驛附近鐵道沿線の國有林で面積五千町歩蓄積針葉樹合せて三、一五五石。

撈其他小字には春採、フレモサ、河塞太大樂毛等がある。尙ほ市街には山のやうなものなく北西の二方遙かに西別、藻琴、阿寒の峻嶺を望み、市街の中央を貫流する釧路川は、北海道五大川の一を以て稱せられ、源を遠く川上郡屈斜路湖に發し、幌呂、雪裡等の諸川を合せて、港内に注ぎ舟筏の便が極めて多い。

釧路市は土語クヌリ「越ゆる道の義」と稱し寛永十二年松前藩釧路川上流「クツヤロ」の土人を當地に移し漁場を開き、久壽里(くしゆり)場所と稱したが抑々の始めてある當時久壽里場所は西はオタノシツア川から東は昆布森村のアチヨロベツに至り、今の釧路市街の地は爾來常に運上屋の所在地であつた。天明十一年松前藩の直轄となるや、交通の便を圖つて通行屋(驛遞)を置いたのであるが、後ロシヤがわが北邊を侵すに至つて、松前藩の力では防禦困難を感じたので、寛政十一年、東蝦夷地を幕府の直領とし、享保二年には箱館奉行の所管となつたが文政四年には再び松前藩の所領に歸し、弘化元年には知床岬に砲臺を築き、烽火臺等も設けられた。その後安政四年場所請負人佐野孫右衛門の募りに應じて南部地方の農家が移住して開墾の業に従事したのがそも、此の地和人の永住を見るに至つた初めてである。

至極便利である。市街は湖の兩岸に跨つて其關門を扼し附近海産其他貨物の集散地、人口九千餘、將來の東北北海道海岸防備港候補地として當局の着目する所となつてゐる。

厚岸湖 は厚岸町の新舊市街によつて其咽喉を扼せられ厚岸灣に連なる鹹湖で周囲七里五町、四圍皆峰巒に圍繞せられ波靜かて湖中牡蠣島點々として風光極めて佳趣に富んでゐる。牡蠣養殖盛んで湖底悉く牡蠣で以て蔽はれてゐると云ふ有様である。

國泰寺 厚岸の町つくる所、パラザ岬の側に名高い國泰寺がある。幕末の頃北邊警備の喧しかつた當時、幕府は北方の安寧秩序を保持し夷民を感化し皇化に浴させる必要から箱館奉行に命じて暇夷に臺、淨、禪各宗の三大刹を創建させた當寺は其の一つである。文化元年、今から二百二十有餘年前の創建にかゝる。境内頗る景趣に富み遙に雌雄阿寒の英峰の雲表に聳えてゐるのを望むことが出来る。今や東北北海道人士の信仰を集め垂徳遍く南禪寺直末、臨濟宗景運山國泰寺の名極めて高いのである。茶内驛から五町乃至二里已に補助移民百七十餘戸を收容し前途有望の農産地である。霧多布 は濱中村役場の所在地で濱中驛から二里半、自動車の運轉あり貨物

維新後明治三年佐野氏は再び奥羽地方から二百三十五戸の移民を募り、家屋及漁具を給して漁撈に従事せしめ茲に釧路開發の基礎を築き、明治五年には開拓使根室支廳の治下に置かれ、十五年には根室縣下の管轄となり、十八年五月此處に釧路郡役所を開設せられ二十三年特別輸出港に選定されてからは外國船の出入も多し、漁商共に發展を續け三十二年には郡役所を廢して釧路支廳を置かれ三十二年には開港場となり、明治三十三年北海道一級町村制を施行せらるゝに及びて自治體は始めて現出したのである。町制が施行せられると鐵道の開通、釧路港修築工事着手等に依つて人口激増し、都市としての發達著しく、大正九年七月一日北海道區制を施行せられるに至つた。二年にして早くも大正十一年八月一日市制實施せられ最高自治體となつて今日に及んだのである。

自然的位置から見た釧路港 本道は南北に走る狩勝の分水嶺が自然の障壁をなして東部と西部の北海道に兩斷されて居る隨つて亦運輸の上にて狩勝以西の物資は西部の諸港を経て道外と取引されるを便とし又其以東釧路根北四ヶ國の物資は當然其吐け口を、東部に見付けねばならぬ。而して能く其の役目を果し得る地の利を得たる良港は釧路港であると云

の運送の便を計つてゐる。附近貨物の集散地として郡内樞要の地である。濱中村は水産殊に昆布、鮭を産するを以て其名著はれ東北二十町の所に鮭、鱒の人工孵化場あつて、鮭千萬粒、鱒五百萬粒を容れる設備あり、又大正十五年から東洋捕鯨會社工場が設置せられ今後漁業益々盛んならんとしてゐる。

釧路市

位置及地勢 釧路市は北海道海岸に於ける唯一の要港を控へ海陸交通の樞軸に當つてゐる市街は釧路河口に跨つて高臺と低地との二部に分れ、高臺は市街の南部を占め、米町、浦見町、浦離舞の全部、春採の一部及幣舞町の大部分に屬し其西端(米町)は斗出して知人岬を爲してゐる。低地は釧路川の兩岸に跨つて西方に延びて海濱に達し、一は北方別途前の砂濱に連り、一は南方鬼呼の海岸に達してゐる。而して川の北岸に西幣舞、頓化の二字、南岸に眞砂町、洲崎町、入舟町、幣舞町の一部、茂尻矢、芋足糸及び知人岬等がある。釧路川に架けた延長百二十間の幣舞橋は、其の上流及び下流の渡船場と共に南北兩市街を連絡する交通上重要なものである。

大字桂懸村は市の東部を占める海岸の一小村落で、住民の生業は概ね農業と漁へる。同港は實に東北海道に於ける太平洋の唯一の不凍港であるのである。交通上から見た釧路港 のみならず農産物の中心市場たる帶廣を起點として小樽港へは百八十五哩の距離があり釧路港へは八十哩で、運賃に於ても雜穀一俵につき九錢餘の相違がある。又第二期拓殖計畫による釧網線豫定の昭和六年度に竣功の曉には、網走を起點として小樽へは三百二十一哩、釧路へは百三哩で、實に二百八哩の差があるから此地方の物資が何れの經路を辿るのが交通上並經濟上有利であるかは多言を要せずして明かである。然るに現在に於ては北見及十勝の物資の大半は小樽を経由して道外に輸出されてゐる。これ小樽は先進都市であるが爲め港灣設備や商業機關が釧路より一層完備してゐるからである。

然し以上の如く何れの點よりするも當然此地方の物資は釧路港を經由するのが自然の道である。釧路民は今後此不自然な現狀を打破し自然に歸せしむる眞に努力すべき重大なる任務を有つてゐる。産業上から見た釧路港 大正十四年に於ける釧路市の總生産高は六百三十四萬餘圓にして十年前の大正五年の二百六十二萬餘圓に比較するに約二倍半の増加を來してゐる。今大正十四年中に於ける生産額を左に掲げよう。

六、三四〇、七八二圓



水産物	三、三〇六、八〇〇
魚類	五〇九、六四八
鮭	三八四、〇〇〇
鱒	二二一、七六〇
鮭魚	四九〇、一五〇
油	二〇八、二五〇
魚類	二二五、六六四
長切昆布	二、四八、六九二
工産物	一、二五〇、三六八
製材	一、二六、五九八
木製品	七四、〇一〇
ベニヤ板	六五、〇〇〇
寸軸木	

製材、パルプ等特に顯著である。林産に於ては官有地、地方費有地、國有未開地等、其面積は甚だ廣大で鬱蒼として千古斧鉞の入りざる大森林尠ならず其林木積石は十數億を算せられ年々二百五十餘萬石、全道産額の二分の一を出すのである。又鑛業に至つては釧路炭田あり、面積三十四方に亘り埋藏量約四億噸、未調査に屬するものを計算すれば無盡藏と稱せられ現に太平洋炭礦會社、雄別炭礦鐵道會社、北日本礦業會社を始め各處に於ける採炭は未だ原始状態であるが年産四十萬噸を突破し二十餘萬噸の道外移出を見てゐる。右各會社は何れも其規模廣大で、採炭は悉く鐵道に依り當港に輸送せられるのであるが雄別炭礦は自設鐵道に依り太平洋炭礦は私設臨港鐵道に依るの産出は數年増加の計畫があるのて數百噸あらう。水産は海岸線九百二十五里、魚貝、海藻の豊富なる全道に冠絶し、其の産額年々二千萬圓を下らない。

於ける輸出入合計二、三〇、〇〇〇圓で年々増加の趨勢にはあるが小樽函館に及ばざること甚だ遠いのである。(貿易の欄参照)

港灣の現状及修築 釧路港は釧路川の河口を抱擁し西方に面する開港で南方知人崎、北方頓化から各防波堤を突出せしめ六十七万坪の水面を被覆し、其海陸聯絡設備未だ成らず其輸送系統に於て甚だ遺憾の點が多い。故に目下六百九十七萬圓の國費を以て港灣修築中で昭和二年に左の工事竣工の豫定である。

南防波堤	四千六百五十尺
北防波堤	四千五百尺
防砂堤	千六百尺
被覆面積	六十七万餘坪
浚渫坪數	十三万九千立坪
河内	八万五千立坪

尚之と關聯して三百六十萬圓の經費で之は第二期殖計畫を樹つる際には當然七八百萬圓に増額さる、(管)釧路川治水工事行はれ之れ又昭和四年には完成の見込で目下工事中、即往年河港改良の目的國費に依り阿寒川が切替へられたが釧路川から流入する土砂は港内を埋没するもの年々三万乃至五万立坪もあるのて已むなく之が流入を防止する事となり九ヶ年繼續事業として大正十一年前記の工事竣工されたのである。

は本港の面目一新し前記の東北海道太平洋岸に於ける唯一の不凍港として其機能を完全に果す事となるであらう。

人口及主要官衙 大正十四年十月一日現在人口は四万二千三百三十三人で大正九年の三万八千六百餘人に比し三千六百餘人の増加となり現在本道都市中第六位である。尙主要官衙學校左の如し

釧路市役所、釧路國支廳、警察署、地方裁判所、區裁判所、稅務署、釧路築港事務所、釧路川治水工事事務所、常呂川治水工事事務所、測候所、營林區署、聯隊區司令部、其他中學校、高等女學校等がある。

大樂毛馬市 大樂毛(オタノシゲ)馬市は釧路産牛馬畜産組合之を經營し毎年八月一日から九月日まで六日間、十月三日から九月日まで七日間、十一月一日から五日まで五日間定期に行はれ、馬市當日は全國から商人參集し雜踏を極める盛況で本邦第一と稱されてゐる。大正十四年には出場頭數一千四百七十六頭、賣買頭數八百八十七頭、代金二十一萬一千三百七十一圓に達した程である。又軍馬は出陳馬四千頭、上五頭、金額二萬九千八百四十五圓外に農林省北海道廳福島縣の種牡馬購買があつて、大樂毛驛積出しは貨車八十六頭、六百七十八頭、譯内地十四車、百十五頭、道内七十二車、五百六十三頭であつた。大正十五年の出陳馬四千四百頭軍

馬千二百頭で前年より激増したのである。畏くも 今上陛下大正十一年七月 東宮殿下とし本道御巡啓の砌、同月十八日當地に御立寄なされ馬市盛況の御覽覽の榮を給ふ。

春採湖 は釧路市街の東方驛から二十丁の所にあり、周回一里半、東西に細長く北岸の丘陵地には公園の豫定地がある。水清澄ではないが風光絶佳、釧路人土一日の清遊をなすに足る。湖畔の丘上に五十戸程のアイヌ部落あり。附近に石炭を産し所謂釧路煤田の一部を爲してゐる。

郡とに接し南は太平洋、東はオコク海に莅んでゐる。千島國は國後島の南西端國後水道を挟み根室半島と相對し占守島の東北端クリル海峡を隔て、露領カムサツカのロバトカ岬と對峙してゐる。管内十郡十二町村(外に千島に屬する三郡二十島)を以て管轄區域とし東の海岸線七百四里面積千二百七十三方里で本道全面積の約五分の一を占めてゐる。

千島列島は火山帯で山岳重疊し或は海中から屹立してゐるのがあり或は平地に乏しいものもある。根室國は大部分坦々たる太平洋原野で其面積三十七萬二千四百町歩、内農牧適地二十五萬五千餘町歩あつて優に十四五萬人の人口を容るゝことが出来る。

當管内は高田屋嘉兵衛等の努力によつて古く渡島地方と同時に開拓の端を發したが地理的位置の關係上運輸交通遲々として振はなかつたのである。元松前藩下に屬してゐたが寛政十一年露人擄捉島に來寇してから幕府の直轄とし或は分轄して奥羽六藩其他熊本、佐賀の各藩、増上寺に支配させた事もあつたが明治四年八月に至つて之を止めたのである。先是明治二年十月開拓使役所を根室に置き判官松本十郎赴任した。當時今の根室には運上屋僅かに一戸あつたのみであるといふ五年九月開拓使根室支廳を置き十五年二月根室縣(根室、釧路、北見)に屬し根室郡











ある。  
 沿革 十勝は初め「ピロー」場所と云ひ松前藩士嶋崎藏人の給地にて運上屋を茂寄に置いた。寛政十一年幕府の直轄となり「ピロー」の音雅訓でないから改めて十勝場所と稱したのである。文政六年十一月幕府十勝場所を仙臺藩に賜ふや茂寄に陣屋を建て横目附代官等在勤した。其後明治二年開拓使となり國郡を定めて十勝國を置かれ明治十二年浦河郡役所の所轄となり、同三十年七月河外五郡役所を帯廣に置かれ、十勝全國を其の管轄區域とし、同年十一月郡役所を廢し河西支廳を設け今日に至つたのである。

産業 十勝の開発は遠く二百年の昔に於て其の曙光を認めたと、交通機關不備の爲拓殖の功程遅々として進まなかつたが明治四十年函館、釧路間の鐵道開通し次で池田から岐れて網走に至る支線が通じ交通の便が加る様になり俄然移民の増加を來し而も昨大正十五年七月士幌線全通し且つ河西、上川二郡の沃野に當り甜菜製糖原料運搬の目的で敷設した北海道製糖會社經營及び明治製糖會社經營の輕便鐵道は最近十勝鐵道株式會社並河西

鐵道株式會社の經營に移し一般營業を開始した爲農産物の運搬は勿論移民の招徠上大なる好影響を齎し、今亦新得足寄間北海道拓殖鐵道の起工あつて時運の影響する所各種産業の勃興となり、大正十四年に於ける總生産額三千七百萬圓に達し之を十年前の生産額に比べると實に五倍の激増を示してゐる。かくして開拓は河岸肥沃な低地に始まり漸次高丘地に及び實績着々として擧つてゐるのである。當管内に於ける大正十四年度中の生産總額は三千六百八十五万七千六百九十八圓であるが何といつても「農の十勝」として誇るだけに農産物が二千〇四万七千二百三十九圓の大部分を占め工業品の一千五百五十五万六千九百七圓がこれに續き林産物の二百八十八万二千二百四十五圓水産物の百八十八万八千二百二十三圓、畜産物の百四十四万六千〇七十圓等の順序となつてゐる。而してこれを前年度と比較すれば總生産額に於て三十二万六千七百六十八圓の増加がその内譯を示せば

にして他は何れも相當の増加を見せてゐる然しながらこれを各一戸當り平均に見ると時は、本年度は一千三百五十六圓で前年度よりは二十五圓の減少であるがこれは帶廣町及び附近各市街人口の膨脹と無收益地たる荒蕪地に多數の移民入地したるに因るものでその戸數一千〇九十五戸に達するのを見て明らかである。而して更に最近に於ける管内産業の趨勢を一瞥するに過去十ヶ年前即ち大正四年度に於ける總生産額八百一十一万三千五百一十一圓は漸次増加して十年度には實に二千八百六十八万六千九百十二圓の約三倍半にも達したが其後財界の不況を受けて稍下降してゐたが昨年度頃より回復の曙光を見出し昨年度に至りては實に三千六百八十五万七千餘圓の巨額に達した事は生産品の尙戦時好況期に於ける數割の價額に止まりながら此の異數の増加は一に十勝産業の健全なる發達を如實に物語るものである。尙左に最近十二ヶ年間に於ける生産増加の趨勢を示さう。

年次	大正四年	大正八年	大正十四年
農産	四四六五七〇	一、五六一〇、九七〇	二、〇四七、三三九
畜産	九七四三三	五九六、九三三	一、〇四六、〇七〇
林産	六四九、六三三	三、六五、一〇一	二、八五、二四五
水産	九六、七七四	三九四、二八九	一、一八、三三三
礦産			三四

工業 一、四九、五四四 三、一〇六、九五三 二、五五〇、六九七  
 合計 六、五五、一六六 二、三三六、三三三 三、八五七、六九八  
 現住人口に對する割合  
 一人當り 四二四 九八六 一、三五六  
 一人當り 七九 一九七 二、三三三

農業 農業は管内に於ける産業中最も重要なもので大正十四年末既成畑地十一万六千九百七十三町歩既成水田七千六百二十五町歩に達してゐる。而して其の作付を見たもの畑地十萬四千二百一町歩水田六千九百八十六町歩で、尙將來二十五萬餘町歩の農耕地を有し拓殖の前途頗る多事なものである。

次に管内の農業戸數を見るに總戸數二萬七千六百七十七戸人口十四萬六千八百八十八人中農業に従事するもの一萬四千四百七十七戸人口七萬九千七百二十三人で總戸數の五割強を占めてゐる。而して現在農家一戸の耕作反別平均約九町歩に相當し將來實に六萬戸の農家を擁する事が出来る。作物は畑作を主とし大豆、小豆、菜豆、類て大正七年頃時局の影響を蒙り一時大豆類の様な輸出物非常な増作を見たり其後再び舊に復し現在の作付は菜豆、大豆、小豆、米、黍、甜菜、亞麻、麥等之に次ぐ。今大正十四年中重なる農作物作付反別並收穫高次の通りである。

大豆	一八、六九八	一八、四〇五	二、七四七、七七一
小豆	一四、〇八七	一三、八六〇	二、四三三、七七八
燕麥	二、一七〇	一、八三〇	一、二九三、四八八
麥類	二、三三六	一、八八四	三、七九四、四九四
米	六、九八六	九、九三三	三、九三三、四九四
亞麻	三、〇九一	二、九七九	四、六三三、四九四
甜菜	三、七九七	九、九七六	六、七八四、六六〇
豌豆	九、九七一	五、四九〇	一、三四二、〇六九
黍	四、五五五	五、四一七	六、六四四、〇五五

雄大な十勝の農業 「十勝川の流域一帶の廣野はいはゆる十勝平原で、其の中心をなすものは帯廣である。明治十六年こゝに十三戸の農家が移住して來たのが此の町の始りであつた。當時此のあたりは未開の原野で、殆ど交通の便もなく唯僅かに十勝川を上下するアイヌの丸木舟の便をかりるに過ぎなかつた。それが今は人口二萬、戸數約四千を算するりつげな町となつたのである。

此の邊の農業は總べて規模が大きい。畠にしては、小路によつて細かく仕切ることなしに、一枚の畠でうねが五町も十町も長々と續いてゐるのが少くない。こんな廣い畠であるから耕すにも、うねを作るにも、種を蒔くにも大規模な馬の力による。中にはトラクターを用ひて全く大農式にやつてゐる所もある。トラクターはちやうど軍用のタンクのような形で、ガソリンの發動機が取り付けられて、これが大きな鋤を何本も引いて

のすこいなり聲を立てながら、のそり／＼歩き廻ると、二間幅ぐらゐに耕されて行く。又開墾する場合には立木や切株の根本を掘つておいて、それにくさりをつけて此のトラクターで引くとめり／＼と音を立て、根こぎにされてしまふ。

農業者は多く古い習慣になづみやすいものであるが、此の邊は新しい知識をいれて、新式の器具を用ひ、新式の方法によつてどしどし土地を開いて行く。はてはしなく續く廣野の中で、人々は自由な大氣を呼吸しながら土の香に親しんで樂しげに働いてゐる。

十勝の平野は心ゆくばかり晴々しい所である（尋常小學國語讀本卷十一）

（備考）甜菜耕作は本道内に於て當管内主要の位置を占めてゐるが、之が記事は農業の欄に詳記してあるから、同項を参照されたい。

工業 工業にあつては各種製造原料豊富であるのと地理的關係の利便存するから早くから其の有望なことに着目せられてゐたが近頃資本家の活躍によつて其の勃興が二百万圓に達するやうになつた。其の主なるものは甜菜製糖業、製醬業、製紙業、製材業、製麻業等、其の見るべきもの少くない。殊に甜菜製糖業は管内獨特の事業で他地方に其比を見る事が出来ない。大正十四年中主なる産物次の通りである。







これと帯廣町の明治製糖の二つたけであ  
る。此工場は最近日本甜菜製糖株式會社  
清水製糖所を合併し社員六十五名、職工  
及臨時従業人二百四十名、生産高五十六  
万四千二百俵である。

外人農家 (獨乙人) 明治製糖會社敷  
地内に住してゐる。フリードリッヒ、コ  
ツホ外家族五人、大正十二年九月入地、拾  
町歩を耕作し主畜農を經營してゐる。

清水驛 所在地は人舞村に屬し市街  
は戸數四百三十九戸、河西鐵道株式會社  
經營の輕便鐵道は此所より發し鹿追村に  
通じ約二時間て達することが出来る。  
此驛から上り線により新得、新内を過  
ぎると其名も高い狩勝の國境にさしか  
る。

狩勝の展望 「瀧川から根室行の汽車  
に乗ると約五時間後に石狩と十勝の境に  
ある狩勝の峠にさしかる。此峠には長  
いトンネルがあつて其のあたりは海拔千  
八百尺、北海道鐵道沿線中の最高所であ  
る。汽車は密林の間をへぎへぎと通り抜  
けてやがてトンネルにはいる。しばらく  
暗黒の中を通つて再び光明の世界に出た  
時、突如として眼前に展開せられた風景  
は雄大といふか豪壯といふか恐らく金道  
第一の壯觀であらう。右手には遠く日高  
境の山々が大浪のやうに連なり、眼下に  
は廣々とした十勝大平野がはるばると續  
いて、末は青い大空に接してゐる。汽車

は無人の境を曲折して下る。畫がけるが  
如く美しき山の、或は右に或は左にあら  
はれるのはサホロ嶽の連峯の一つであら  
う。はるか下に一條の白煙をたなびかせ  
て見えかくれする上り列車は、ちやうど  
おもちやのやうに見える。(尋常小學國  
語讀本卷十一から抜萃)

膽振支廳管内

岩見澤から室蘭線により三川驛を過ぎ  
暫くすると膽振支廳管内に入る。  
管内概況 管内は膽振國の大半を占  
め五郡十三ヶ町村を管轄し、廣さ二百三  
十九方里八分、東は日高に界し、南西  
開けて漂渺たる太平洋に面し西は内浦灣  
(一名噴火灣)を控へて渡島國に接し北境  
長く石狩、後志の兩國に連つてゐる。  
管内概況 胆振支廳管内は、表土は  
岸附近は第三紀層に屬してゐる。表土は  
郡の北部砂質壤土、南部は火山灰質土  
の外僅少の埴土である。勇拂郡は第四紀  
層に屬す表土は火山灰質で僅かの埴土及  
壤土を見、虹田郡の全部は火山岩から成  
り其表土は大抵埴土である。有珠郡は一  
帯が火山系であるから大抵多量の火山灰  
を含んでゐるが郡の南部伊達村大字長流  
村の如きは良好な壤土である。鑛物は金  
銀銅鉛硫黄石炭石材等至る所に温泉の  
湧出を見るのである。  
山嶽の餘り高いものはないが三千尺以

上に達するもの八座ある其中樽前山は本  
邦著名の活火山で一大音響と共に爆發し  
て黒煙天に沖し、降灰數時間に及ぶこと  
屢々である。有珠岳は三千尺に達しない  
が噴火山として之亦名高い。  
大なる河川はないが其中でも管内第一  
と云はれてゐるのが鶴川で延長三十七里  
十町、流勢緩く水量豊富で南に流れ太平  
洋に注いでゐる。鶴川及似灣土功組合は  
此川を利用してゐるのである。其他の河  
川も概ね太平洋に注いでゐるが二三の川  
は噴火灣に注いでゐる。  
當管内は往昔松前藩に屬し或は南部領  
となり又は其他の諸藩に分轄されてゐた  
が明治元年四月開拓總督が置かれてから  
管内全部箱館裁判所の所管に屬する様  
になつた。翌二年開拓使に移屬し其後幾變  
遷を経て明治十五年となり札幌縣の管下  
となつたのである。更に十九年道廳置か  
れる様になり室蘭外三郡及勇拂外五郡役  
所に屬し、明治三十年十一月虹田(當時  
俱知安村を除く)外五郡は室蘭支廳の所  
轄となつた。其後も行政上の變遷あつて  
今日に來つたのである。  
更に産業につき概観するに、當管内は  
噴火灣に於ける有珠山及太平洋に面して  
ゐる樽前山の火山系地帯で、僅か長流川  
鶴川、厚真川、安平川流域の沖積土を除  
くと有珠、虹田兩郡に於ける高丘地、火  
山灰地及勇拂郡、白老郡の火山灰地、泥

炭質濕地等何れも地産力に乏しいが、幸  
に穀類は能く熟し、白老、勇拂の火山  
灰地は放牧に適してゐる。工業は明治四  
十年以來製紙原料である林産物が地方に  
豊富なのと水力電氣を利用するに便利な

關係上、製紙肥料製造等の大工業も俄に  
發達したのである。水産は三十里餘に互  
る海岸線を有つてゐるから種々の魚族に  
富み、今や各種生産額は一ヶ年三千万圓  
を超過するの盛況を示すに至つた。

今大正元年以降毎五年並大正十二年及  
十三年の五ヶ年を採り、其統計を摘録す  
れば左の通りである。

年次	農産	畜産	林産	水産	鑛産	工業	計	一戸當	一人當
大正	二,九七六,〇五五	二〇四,五三三	七四四,四八〇	五三三,一六五	二八四,七六〇	四,〇六三,七九九	八,七六六,七九三	四一九	三三
正	三,九三三,二二三	一八六,九九三	九二一,四六三	一,二六三,四七〇	九五三,六五三	一七,六三六,五二五	二四,八九四,三三七	一六八〇	三三
正	六,六七五,〇四一	六四三,二七五	二,九二五,四七二	一,九六八,五七〇	一,〇〇一,一七〇	一八,八六一,八九六	三二,一六五,六三六	一,七八五	三三
大	四,三九四,二八三	六四三,二七五	二,七五五,八五七	二,三三六,八七五	一,五九三,三九九	一七,二〇五,七〇〇	二七,四九一,八七五	一,七八五	三三
大	六,三〇七,四五〇	七一九,三二二	四,〇四一,五五五	二,二八三,六九五	二,八五三,〇〇〇	一八,一七五,五五三	三二,八二二,七六六	一,五六六	三三

尙大正十二年に於ける工業、農業、林  
業、水産業につき各主要産物を擧ぐれば  
次の通りである。

汽車は當管内に入り其第一驛追分に着  
く、此驛から夕張線は分岐し夕張炭山に  
行くのである。追分を發した汽車は沿道  
の諸村(安平、苦小牧、白老、幌別)に  
火山灰地帯を右に左に見ることが  
出来る。此所が前記の勇拂郡で第四紀層  
に屬し表土は火山灰質で僅かに埴土及壤  
土を見ることが出来る地方である。早來に  
早來火山灰試驗場がある。驛から  
約五丁で北海道廳農事試驗場に屬し、廣  
く本道に分布する所謂火山地の改良及び  
火山灰地方農業經營上重要な諸種の試験  
を爲すのである。明治三十七年から試験  
事業に着手してゐる。明治三十七年から試験  
株式會社の馬車鐵道が通つてゐる。軌道  
沼端は室蘭線の要驛で近時北海道

鐵道株式會社の經營により、東へ金山線  
(沼端、邊富内間)を分岐し西北、札沼線  
(札幌、沼端間)を派し交通上の要路とな  
つたのである。附近火山灰地であるが牛  
馬の放牧に適して、一里十八町で松田牧  
場につくことが出来る。  
勇拂原野 沼端驛を發した汽車は苦  
小牧に向ふ其途中沿線に國有未開地約六  
千町歩あるのを見る。火山灰濕地で概ね  
地味不良で且つ低濕地であるから排水の  
施設を爲す必要あるが排水工事には數十  
万円を要するから目下此方面に於ける農  
業上の價値及土地改良事業施行に關する  
調査中である。此所を通つて製紙盛んな  
苦小牧町に着く。此地は漁業を先  
驅として殷盛を極めたが明治四十三年王  
子製紙工場工事の完成、引續き電化工業

- 米 一、一〇一、七〇六円 麥類 四〇三、七五五円
- 菜豆 三二、〇四四 大豆 二九七、一八六円
- 工業 新聞紙及紙料の製造、カーバイド製造、亞麻製線等が主要なものである。
- 林業 主要林産物は丸太材、挽材等て薪炭等である。
- 其他電柱材、船材、下駄材、車輛材
- 水産 二五五、四二〇円 鱈 三三二、九〇三円
- 鯨 一〇五、九二一 柔魚 四〇四、〇五八円
- 肥料 五二、四三元 食料品 四三、八六四円



株式会社のカート製造工場の設置せられるに連れて、頓に戸口増加し、市街の形勢一變し大市街の建設を見る様になり今や人口約二万を有し大正八年以來町制の實施を見るに至つた。尙本町は札幌室蘭間國道の中央に位置し、國有鐵道室蘭本線の一要驛であるばかりでなく、苫小牧輕便鐵道は本町を基點として日高沿岸に達し且つ第二期拓殖計畫に伴ふ拓殖線として浦河迄延長し昭和十年度には完成を期せんとしてゐる。此外王子製紙會社の經營に係る軌道は此所から千歳郡支笏湖發電所に通じてゐる。此様に交通上の要衝に當り、近時日高の開發に伴ひ其の咽喉を扼する關係から其發展益々盛んならんとしてゐる。現在警察署、高等女學校、工業學校の所在地である。王子製紙株式會社苫小牧工場 (詳細は工業の欄参照) 支笏湖 苫小牧驛から西北七里輕便鐵道の便がある。周圍九里三十三町、汪洋たる藍碧の清水湛へて一面の大きな明鏡の如く樽前の活火山は其の背後に控へ頂上には有名な溶岩丘を載せ碧空に向つて盛んに白煙を噴いてゐる其壯觀見るべきものがある。湖の東岸鐵道の終點から千歳川の橋を渡つて東に行くこと數丁、小清流が湖に注ぐ所に千歳孵化場附屬の支笏湖鰯鱒人工孵化場がある。本場は道の内外に卵子を供給して好果を収めてゐる。白老アイヌ部落 白老驛から南七町の所にあつて、戸數百七十戸、人口九百三十六人主として漁業及農業に従事してゐる(大正十四年十一月調)、尙舊土入學校があつて男四十一名女四十二名を收容して教育してゐる。(十五年六月現在) 登別溫泉 登別驛から分岐し、電車で約五分で着くことが出来る。沿線に懸崖數十丈の溪谷あつて、山腹樹多秋に至れば一帯紅葉の錦を織り行客の眼を喜ばせる。これを紅葉谿と云つてゐる。溫泉一帯は四圍峰巒を繞らし溪流に臨み春は櫻咲き亂れ、夏は青葉香芳しく秋は紅葉に富みて絢爛錦を織る風光佳絶の別天地で噴湯の豊富なこと、設備の完全を以て世に知られてゐる。此溫泉は其昔火山爆發の跡で、硫黄明礬などが多量に堆積してゐたため遠く松前時代から許可を得て採掘に従事するものがあつたが、溫泉場として經營せられるに至つたのは今から約八十年前、瀧本金藏氏がこの地に移住し、場所請負を命ぜられ湯守りとなつたのが本溫泉場の初まりで、爾來交通の便旅館の設備その他諸般の施設完備するに従ひ、浴客日に月に増して、今では年々十數萬の來浴者を呼ぶに至つた。泉質は硫黄泉、綠礬泉、鹽泉カルルス泉等効能は諸病に顯著である。中にもリウマチス、生殖器病、腸胃カタル、皮膚病等

も浴してゐない浦河支廳管内に入るのである。管内概況 當管内は日高國一圓で北海道の中央南端に位置し、東北は峰重疊たる日高山嶺遮つて十勝國に接し西は一帯の丘岡を以て膽振國に連り南西一帯は渺々たる太平洋の蒼海に面し、三百二十方里の面積を有してゐる。地形西北から南東に長く不平等邊三角形をなし、地勢北東國境から南西太平洋に向つて傾斜してゐるので大小の河川直下西南に流れて太平洋に注いでゐる。國內丘岡幅出して廣大な平野の地に乏しいが高原は牧場に適し十數條の河川流域は概ね平坦で豊饒な農耕地である。又四十有餘里の海岸線は屈曲少く従つて天然の良港佳灣を有しないが魚介の漁獲は甚だ多い。日高國は往昔蝦夷以南を口蝦夷と云ひ以北を奥蝦夷と稱してゐた。佐瑠は蝦夷創業の地で土人の都會であつた當時は蠻威を四方に振ひ戸口の多いことに實に全道第一であつたと云ふ。其後松前氏之を治め、寛政十一年正月浦河から以上北見を限り其他の諸島を併せ幕府の直轄とした享和二年五月箱館奉行の手に移り、文政四年復松前氏の治下となつたが安政二年再び松前氏の管領となり明治に至つたのと稱する様になつた。爾來幾多の行政上の變遷を経、明治三十年郡役所廢止され

に卓効がある。溫泉の湯元は第一瀧本の裏手數丁を距る處にある。この邊を地獄谷と稱してゐる。地獄谷など呼ぶ名は何處の溫泉にもあるの珍らしきものないが、こゝではそれが如何にも尤もらしい地獄そのまゝの凄壯さである。谷は方四五町、昔の噴火口である崩れ崩れて硫黄の交つた土やら崖が剣山のやうに尖つたのに圍まれて何處とはなしに轟々と湯のたぎる音が聞え、何處とはなしに白煙のもくもくと立騰つて剣山の頂きに消えてゆく。硫黄の臭氣鼻を衝いて實に凄絶の極みである。洞爺湖 室蘭港から汽船で西紋離別の上陸し湖畔壯村に至る三里二町、有珠火山の北麓にあつて周圍十三里半、周圍悉く山を以て繞らし湖の中央に千三百八十餘尺の一大島がある中島といふ。有珠山南に聳え蝦夷富士、其の北方に雄姿を現はしてゐる。湖水清淨、汀を去る數間て湖底深く、深碧其深さを知らない位である。附近の森林太古の風をそのまゝに苔蒸した大木湖水に倒れるなどあり魚族は群をなし、百鳥樹間を囀つてゐる風光、誠に掬すべきものがあり、湖畔に溫泉湧出し旅館等の設備がある。湖中鰯鱒、ユグヒ、姥等の魚族蕃殖してゐる。長輪線開通の曉は遊覽者の杖を曳くもの多いことであらう。伊達町 室蘭線の一驛、輪西から分

岐してゐる長輪線により海岸傳ひに走ると伊達紋別驛に着く、此地は明治二年仙臺藩伊達藤五郎農兵相兼の藩法に従つて舊臣一千三百六十二戸を提げて君臣團體移住に決し、同十月家臣田村顯允開拓使用掛として先に渡道し、實地視察をして歸り翌三年三月壯丁二百五十人を選抜し第一回移住を行ひ同五、六年を通して同藩士柴田源三郎が家臣を合せて渡道し今日に至つた町である。大正十四年八月町制實施され人口約一万四千、前は内浦灣に面し舟運の便あり、後は東幌別岳北に有珠岳を望み長流川其西を流れ、良田美圃良く開けて、生産總額百六十萬圓を越え農産其半を占め、米、麥類、豆類等を産し地味肥え長輪線全通と共に益々發展せんとしてゐる。善光寺 伊達町大字有珠にある、文化元年幕府蝦夷地開發の爲めに東蝦夷地に三ヶ寺を設けた際、此寺も建立されたもので、浄土宗増上寺末末大白山道場院と云ふ。本道著名な古刹である。浦河支廳管内 膽振支廳管内の苫小牧驛から苫小牧輕便鐵道により佐瑠太に至る。此所から連絡せる日高拓殖鐵道で靜内に着く、それから支廳所在地たる浦河町へは自動車の便をかりるのである。即ち鵝川を過ぎ國境を越えんと未だ國有鐵道一哩の恩典に

も浴してゐない浦河支廳管内に入るのである。管内概況 當管内は日高國一圓で北海道の中央南端に位置し、東北は峰重疊たる日高山嶺遮つて十勝國に接し西は一帯の丘岡を以て膽振國に連り南西一帯は渺々たる太平洋の蒼海に面し、三百二十方里の面積を有してゐる。地形西北から南東に長く不平等邊三角形をなし、地勢北東國境から南西太平洋に向つて傾斜してゐるので大小の河川直下西南に流れて太平洋に注いでゐる。國內丘岡幅出して廣大な平野の地に乏しいが高原は牧場に適し十數條の河川流域は概ね平坦で豊饒な農耕地である。又四十有餘里の海岸線は屈曲少く従つて天然の良港佳灣を有しないが魚介の漁獲は甚だ多い。日高國は往昔蝦夷以南を口蝦夷と云ひ以北を奥蝦夷と稱してゐた。佐瑠は蝦夷創業の地で土人の都會であつた當時は蠻威を四方に振ひ戸口の多いことに實に全道第一であつたと云ふ。其後松前氏之を治め、寛政十一年正月浦河から以上北見を限り其他の諸島を併せ幕府の直轄とした享和二年五月箱館奉行の手に移り、文政四年復松前氏の治下となつたが安政二年再び松前氏の管領となり明治に至つたのと稱する様になつた。爾來幾多の行政上の變遷を経、明治三十年郡役所廢止され

北海道廳浦河支廳となり現在に來つたのである。國內丘岡蟠屈して比較的平行の地乏しいが、地味概して豊饒氣候溫暖に農耕適地約二萬六千町歩を算する。海岸線は天然の良港乏しく修築を急ぎ若くは必要を認め對策を講じて居り、近海寒暖の兩潮相交流して魚介の棲息多く海岸線の延長四十餘里に達する。管内産業としては農業、水産業、商工業、鑛業等を主たるものとし十四年度戸數一万四十七戸の職業別戸數は ▲農業三八五五 ▲牧畜業四六六 ▲林業六五 ▲漁業一五五五 ▲工業四六五 ▲商業一一一九 ▲労働一一二四 ▲庶業一七一 生産總額一千八百萬餘圓内譯は左の如くである。 農産 四、六一二、二三七圓 畜産 三三一、六七〇圓 水産 五、〇三三、六五八圓 工業 四九六、七五八圓 鑛産 一、二九九、二二三圓 林産 二六、四五八圓 農耕地は現在二萬二千餘町歩にて中水田四千四百町歩、畑一万八千町歩の農家戸數三千八百五十戸、主要農作物は米、大豆、小豆、燕麥、玉蜀黍、馬鈴薯、牧草等にて畜産の發達と共に益々堅實なる







同 七年 三、二四八
同 九年 五、〇八三
同 一〇年 二、八五五
同 一三年 一〇、九八三
同 一四年 一〇、一五五
同 一五年 五、〇四〇
即ち大戦當時は右工場の盛況其極に達し人口も多かつたのであるが戦終結後は事業萎微振はず其縮少を餘儀なくせられた爲め人口も其後は漸次右表の如く減少を示すに至つたのである。

輸出入貨物 由來當港の發達は地理上の便利と石炭の集散及工業の勃興によつて今日を見ても輸出輸入貨物は石炭、工業原料を主とするのであるが本港の海陸連絡設備の充實と陸上交通系統の變化とに依り一般貨物も亦石炭其他に準じ増加する傾向を有つてゐるから將來は少からず其の量を増するに至るであらう。

本年港を以て渡海場と定め本州間の連絡地としたから其の狀態比較的旺盛であつたが明治四十年函館、小樽間の鐵道開通迄は本港は其の連絡要衝地であつただけに入船船隻も多數を占めてゐたのである今最近の狀況を示さう。

Table with 2 columns: 種類 (Type) and 概要 (Summary). Rows include 南防波堤, 北防波堤, 船入, 埠頭, 棧橋, 物揚, 倉庫, 高架橋, 水櫃, 水櫃, 繫船浮標, 臨港鐵道, 小船溜, 浮船, 港灣修築, 港灣沿岸, 築港沿革.

と、し大正十年以降四ヶ年を以て完成する案を立て該計劃に編入した超えて大正六年長官侯孫一拓殖計畫の改訂を企てた時本港の急激な發展は到底前修築計畫を以て満足することが出来ない事を認め技師伊藤長右衛門に更に調査計をさせ南北防波堤の築設及港内樞要の箇所三六万坪を浚渫すると云ふ設計を樹立し大正七年度から大正十二年度に至る六ヶ年の繼續事業としたが後政府財政の關係により事業年度を繰延べ昭和二年迄と爲すに至つたのである。

外側には大割石或は大玉石を投入して堤を擁護する。港内浚渫 港内要部八万三千餘坪を水深二十四尺に同二十八万坪を三十尺に浚渫するもの港内水深三十尺以上の面積約百三十万坪を得るものである。

千坪は現に工事施行中である。室蘭港の價値 當港は既述の通り天然の良港であつて、其の水深に於て紐育に肩を並べ面積に於て横濱、小樽、函館の二倍である。政府は夙に此の天恵に着眼して明治二十三年勅令で室蘭を第五鎮守府の位置に指定した。然し地方民は商港として將來宇内に雄飛せんことを熱望して止まない同三十六年遂に其の指定が解除されたのである。爾來日本製鋼所輪西製鐵所の様な大工業市内に起り附近苦小牧町に於ては王子製紙會社苦小牧工場電氣化學工業會社等起業し夕張、空知方面の石炭輸送旺盛となつて港灣の利用年を追ふて發展し前述の様な種々の大計畫を見る様になつたのである。



の實現を見ること敢て遠くはあるまい。日本製鋼所室蘭工業所、室蘭市の輪西驛からは無数の煙筒、濛々と昇る白煙、黒煙、丁度九州八幡の製鐵所附近を通るやうである。こゝが有名な日本製鋼所である。創立は明治四十年、創立當時は北海道炭鐵汽船會社と英國に於ける軍器製造工場たるアームストロング及びグヰッカースの共同經營として成立したものである。之より先炭鐵汽船が鐵道國有の結果鐵道に對する資金を回收し得たるを機會に鋼鐵製造業を經營せんとする計畫を立て前記二社に交渉を進めたものであるが共營の議あり同年十一月東京に於て創立總會を終り室蘭に工場を設置するに至つた資本は當初一千萬圓とせりも四十二年更に五百萬圓を増し大正八年には北海道炭鐵汽船、三井合名、三井鐵山の三社共營の北海道製鐵株式會社を合併して資本總額三千萬圓と爲した而も翌年株式會社廣島製作所をも買収し事業は頗る發展を見たが戰後整理に依り十四年十二月吳佐世保舞鶴横須賀の各出張所を廢し今日に至つた現在工場出張所の所在地は左の如し。

する様になつた。用地百二十萬六千坪工場建物四萬八千坪を有し製鐵部(輪西)と鐵鋼工場とに分れて、大仕掛の施設をなし各種大砲、彈丸等を初め諸種の兵器及鐵道省用品並一般注文の製作をなし職工一千數百名も使用し晝夜間斷なく機械を運轉してゐる。工場の外に瓦斯發生所發電所等を設け埠頭には百噸の大起重機を設備してある。此様に大規模であるから斯種の品物を製作する工場としては東洋第一であると云はれてゐる。事業が事業だけに大戦當時は得意の絶頂に達し其爲めに室蘭の町も人氣甚だよかつたのであるが戦争終結と共に事業か不振に陥り事業を縮少するの己なきに至つたので町の景氣も衰へ前記の如く人口も漸減の傾向を示すに至つたのである。然るに仄聞する處によれば現在作業中鐵板設備を増設すると共に鍍金用の薄鐵板製造に着手する意向を有して居る若し之が事實とすれば本邦に於ける薄鐵板會社は日本製鋼所川崎造船所及大阪鐵板會社徳山工場の三つが巴狀戦を演ずるのであらう因に鐵板の内地需要額は約二十七萬噸その大部分外國への注文でやつて居る八幡製鐵所及徳山工場は産額僅少で川崎造船所は年産額も十萬噸位の現狀であるから一般から將來は注目せられて居る。室蘭市も更に發展することであらう。

振支廳、室蘭土木事務所、築港事務所、水産試験場室蘭支場、警察署、區裁判所、稅務署、稅關支所、測候所、室蘭警察署水上分署、其他鐵道關係官署等ある外、室蘭中學校高等女學校等の所在地である。室蘭青森連絡、室蘭は、森、函館、噴火灣沿岸及青森に對して定期航海をなし水陸連絡の要地である。函館へ上陸し本道の各所を視察遊覽した旅客は歸途多く此地から森へ向つて函館本線によるか青森へ直航するか何れかの道を通つて、元來た道を再び通らない工夫をする。青森室蘭間は一一〇哩あつて毎日一往復ある。其航海十一時間二十分を要する。(室蘭發午後五時、青森着翌日午前四時二十分)尙此連絡に、青森では鐵道省連絡船の岩壁を使用することになつたので、連絡客は大層便利になつた。

北海道を後に見て 熊! アイヌ!  
寒い! 昔の蝦夷ヶ島! 而も新開自由の天地! 不安と好奇と希望とを有ちながら長途の旅をなし終へて、青森へ向ふ連絡船に乗り込み、右に内浦灣、左に渺茫たる太平洋を望んで思ひ出多き北海の山影を見送る胸の中、果して豫期の通りであつたらうか。

此の憧れの北海の新天地も今や第二期拓殖計畫の樹立によつて、更に一段、飛躍の旅路に上らんとし、希望と活氣に満ちてゐるのである。

# 大倉鑛業株式會社

茂 炭 坑  
小 樽 出  
室 蘭 出  
函 館 出  
張 張 張  
所 所 所



創立 二百四拾餘年前  
 資本金 壹 億 圓  
 諸積立金 五千百四拾萬圓  
 預金總額 四億四千參百萬圓



株式會社 三井銀行

小樽支店

小樽市色内町七丁目七番地

電話

長一三五番  
 長一五五番  
 長一五六番

振替貯金口座小樽三番

營業所

本店 札幌市大通西三丁目  
 北七條支店 同 市北七條西四丁目  
 苗穂支店 同 市北三條東七丁目  
 西出張所 同 市南一條西十三丁目  
 函館支店 函館市鶴岡町十九番地

小樽支店 小樽市稻穂町西八丁目  
 手宮出張所 同 市錦町四十四番地  
 旭川支店 旭川市四條通八丁目  
 豊原支店 樺太豊原町大通  
 代理店 室蘭、岩見澤、栗山、美唄、帶廣、余市

創立 大正十一年一月  
 資本金 五拾萬圓



株式會社 北門貯蓄銀行

當銀行の特色

安全 預金の三分の一に相當する有價證券を政府に供託してゐます  
 確實 取締役は連帶無限の責任を負ふて居ります  
 有利 貯蓄預金は利子割合よく其上一切税金がかかりません  
 簡便 普通貯金は十錢以上預ります定期積金は毎月集金に伺ひます

役員

取締役頭取 板谷宮吉 (小樽)  
 取締役 小竹文次郎 (札幌)  
 取締役 古谷辰四郎 (札幌)  
 取締役 藪谷惣七 (札幌)  
 取締役 笠原定藏 (旭川)  
 取締役 岡本康太郎 (函館)  
 監査役 宮木錦三郎 (札幌)



土地家屋  
貸付業



札幌市南一條西十三丁目

大合名會社

電話 一八九〇番  
振替小樽 三九〇五番

建築事務所

無料相談  
指田流之輔  
建築創作室  
設計監督

札幌市南一條西十三丁目  
電話二六〇番・二〇七九番

設計監督  
設計監督









割ハ之代

札幌市  
南三条四丁目

電話 二二九番  
三一五五番

# 豊平館

杉山正次

札幌市大通西一丁目  
電話 七六六番  
三四一三番

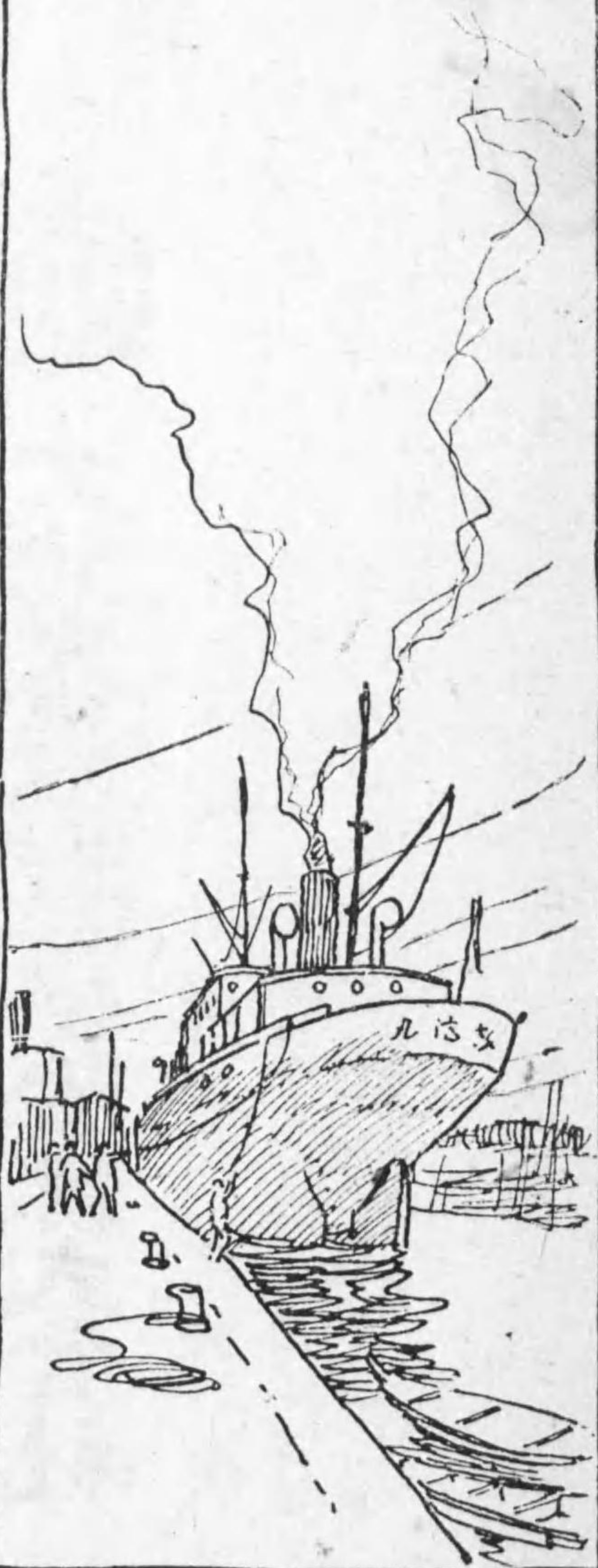
西洋御料理  
宴會御勉強

# 精養軒

札幌市南一條西四丁目仲通  
電話 八七七番



# 函館船渠株式會社



ほノ一

亞

麻

製

品

織物類	帆布(ツツク)	飛行機翼布	ホネル服地	洋服眞地	リンネルシャツ地	テールクロス	ナールキ	タール	シール	ハンカチーフ	手藝用リネール地	浴衣	防水スキ	軍服	鬼手
絲類	麻布用	蚊帳用	飛行機縫	セーラーキ	漁網	ミシン縫	レインズ	ボタンス	疊用	柳行李編	綜統	其他各種麻絲	麻織物類		

## ★帝國製麻株式會社

札幌支店

札幌市北七條東一丁目  
電話一〇三番・一、二、三〇番  
振替口座小樽七三四〇番

ほノ一〇



函館出張所  
札幌出張所  
旭川出張所  
帯広出張所

函館市末廣町四十五番地  
札幌市南大通西四丁目  
旭川市四條通八丁目  
帯広町二條通七丁目



# 大北火災海上運送保險株式會社

小樽支店

小樽市色内町六丁目四十番地

電話 一八〇二番・二三八番  
振替貯金口座小樽 七五〇一番

## 取扱品名

夕張炭  
内川炭  
幌川炭  
砂川炭  
空知炭  
幾春別炭  
輪西コークス

◎当社取扱炭ハ全國鐵道、工場、瓦斯、船舶  
燃料用炭トシテ廣ク愛用セラル  
◎家庭用炭トシテハ幌内炭、砂川炭、幾春別炭最  
モ定評アリ  
◎全道各都市町村ニ特約販賣店及取次店ヲ設ケ  
アリ最寄取扱店ヨリ御買上ヲ願フ

石炭  
コークス  
販賣



北海道炭礦汽船株式會社  
三井礦山株式會社  
三井物産株式會社

## 北海道賣炭所

小樽市色内町七丁目

電話 代表番號二・七〇〇番  
振替貯金口座小樽二・三四二番

## 各出張所

室蘭出張所  
函館出張所  
札幌出張所  
旭川出張所

室蘭市海岸町  
函館市眞砂町  
札幌市北六條西四丁目  
旭川市宮下通十三ノ右三

電話 二二二番・二二六番  
電話 一六五番・八五五番  
電話 七一九番・三九番・九三九番  
電話 一六五八番



昭和二年七月二十五日印刷  
昭和二年八月一日發行

北海道年鑑  
定價金壹圓五拾錢

不許  
複製

編纂者

札幌市南一條西三十三丁目

石田

磊三

印刷所

札幌市北一條西二丁目

札幌印刷株式會社

發行所

札幌市南一條西三十三丁目

北海出版社

發賣所

札幌市南一條西三丁目

富貴堂書房

發賣所

東京市神田區表神保町

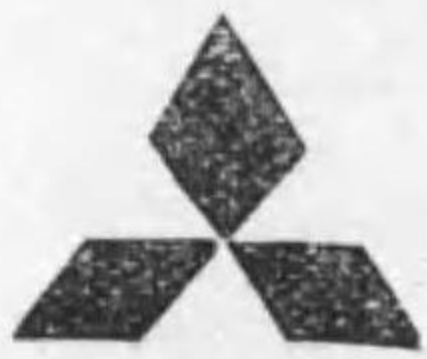
東京堂書店

振替口座東京二七〇番

北海道ニ於ケル  
三菱菱炭

美唄炭 芦別炭 大夕張炭  
大夕張コークス 雄別炭 (一手販賣取扱)

一ヶ年産出高 壹百四拾萬噸



三菱鑛業株式會社  
北海道賣炭所

小樽市色内町八丁目三番地

營業所

小樽 室蘭 函館 釧路  
札幌 青森 船川 仙臺  
大湊 酒田









今井呉服店





14.4  
773



終